第2章

第２章　健康づくりにむけた現状と課題

１．統計数値からみる熊取町の状況

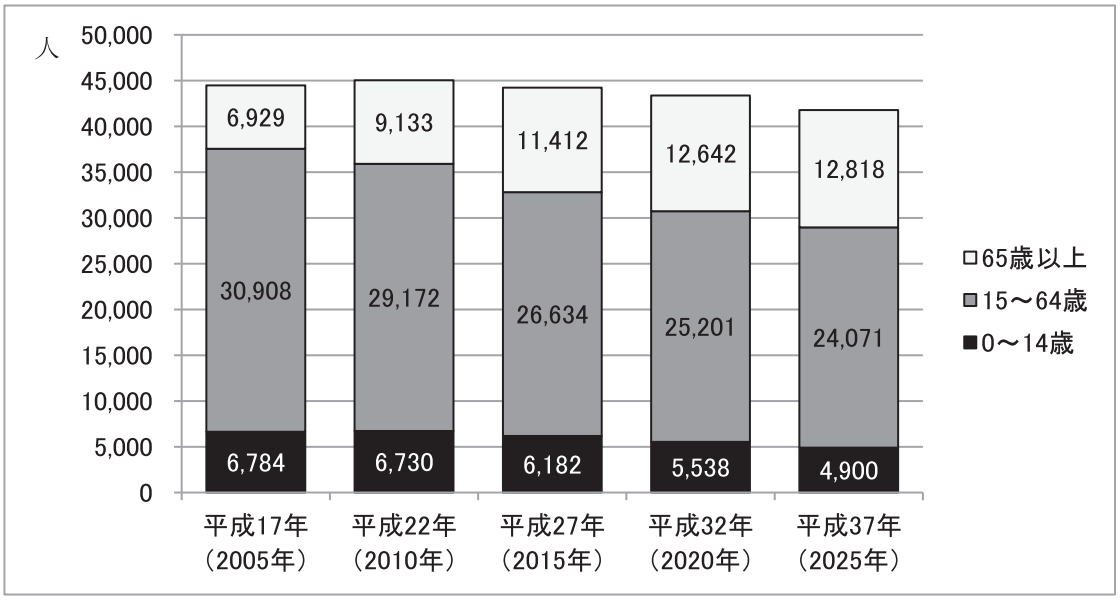
1-1．人口動態

本町の人口は、図表１からわかるように、平成22年の４万５千人をピークに、平成27年から減少に転じています。しかしながら、65歳以上の人口は年々増加傾向にあります。

図表２の年齢３区分別人口割合では、本町は国・府に比べて、０～14歳の割合は高く、逆に65歳以上の割合は低くなっています。

図表３の平成30年10月１日現在の人口ピラミッドでは、「65～69歳」「70～74歳」の人口が多くなっており、今後も高齢人口が増加することが予測されます。一方で、「０～14歳」の人口が少なく、本町で出生する子どもは国・府と同様減少している状況がうかがえます。

図表1：熊取町の人口推移

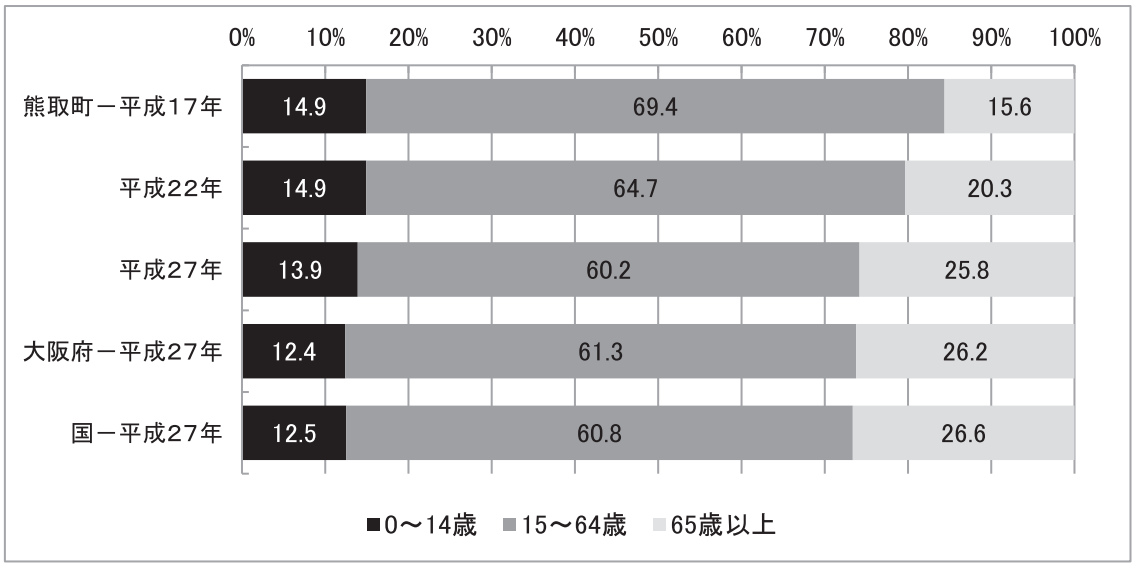


資料：平成 27 年までは国勢調査人口（年齢不詳分を除く。）
平成 32・37 年は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口

【参考】熊取町の人口　（単位：人）

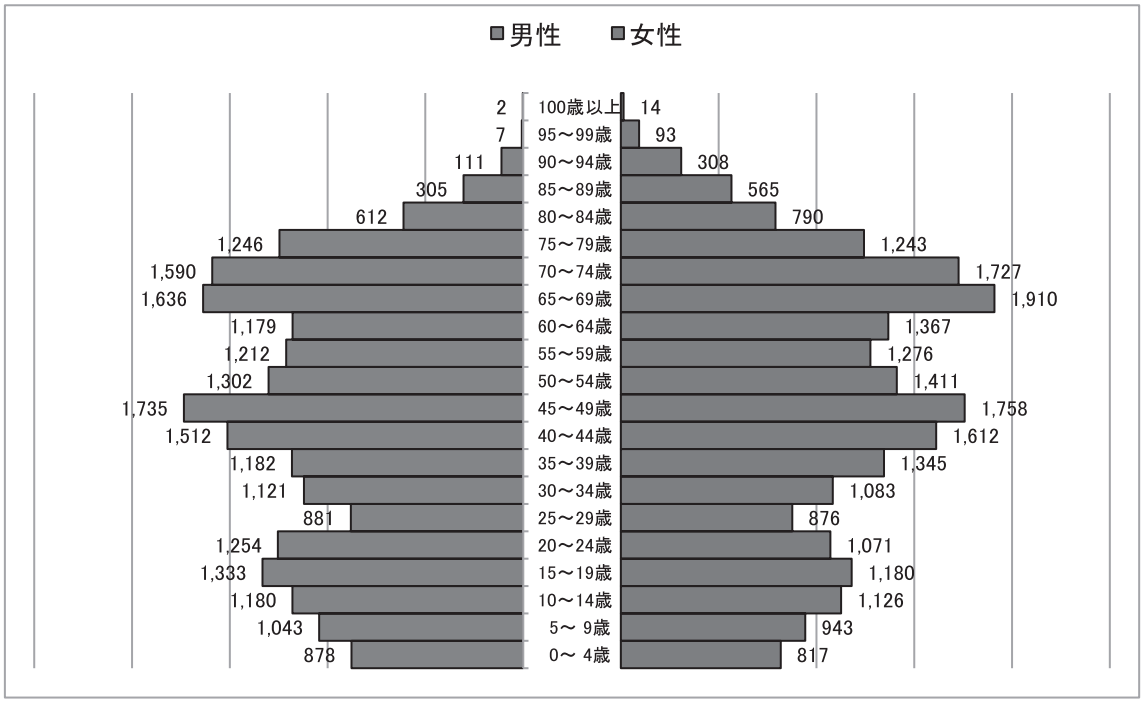
	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
総人口	44,505	45,069	44,435	43,381	41,789

図表2：年齢3区分別人口割合の推移



資料：国勢調査

図表3：人口ピラミッド（熊取町）　（単位：人）



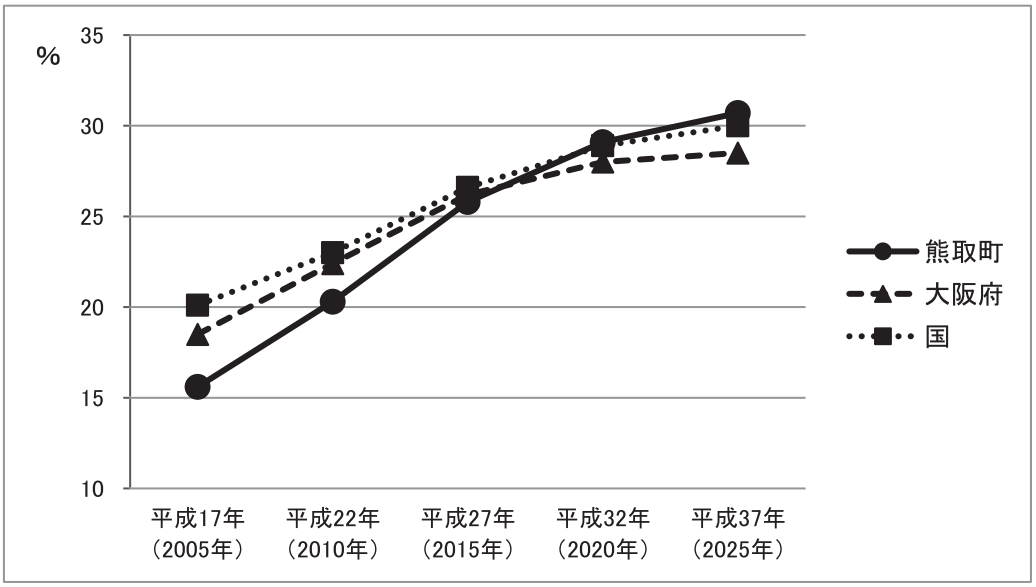
資料：住民基本台帳（住民課）　※平成 30 年 10 月1日現在

■高齢化率

本町の高齢化率は、図表４からわかるように、平成27年までは国、府より低く推移していましたが、年々増加傾向にあり、平成27年では25.8%と、平成22年から5.5ポイント増加しました。

平成32年以降は国・府を上回り、平成37（2025）年には30.7%に達すると見込まれています。

図表4：高齢化率の推移



（単位：%）

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
熊取町	15.6	20.3	25.8	29.1	30.7
大阪府	18.5	22.4	26.2	28.0	28.5
国	20.1	23.0	26.6	28.9	30.0

資料：平成 27 年までは国勢調査人口、
平成 32・37 年は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計

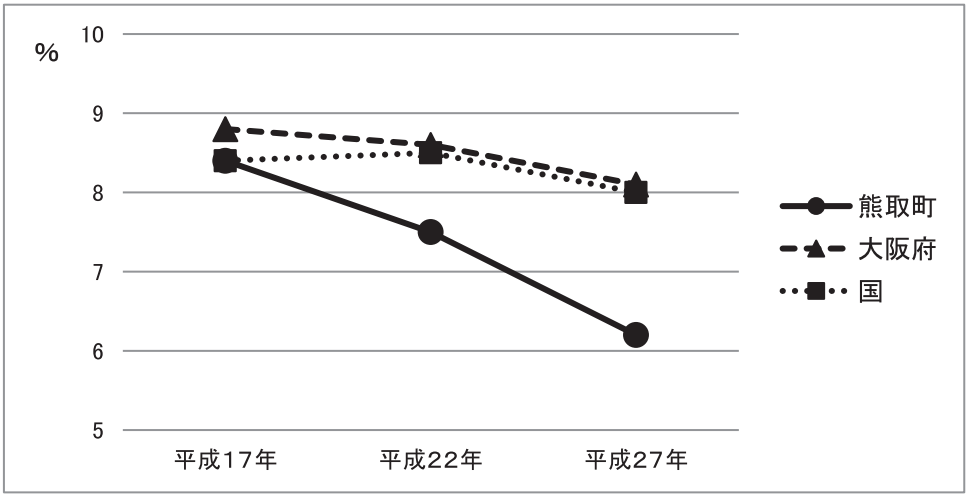
■出生率

本町の出生率は、図表５からわかるように、国、府を下回り、低下傾向で推移しています。

近年、出生時の体重が 2,500ｇ未満の低出生体重児については、神経学的・身体的合併症のほか、成人後に糖尿病や高血圧等の生活習慣病を発症しやすいとの報告もあります。

本町の低出生体重児の出生割合は、平成 23 年～27 年の平均値でみると、国、府を上回っており、妊娠前・妊娠期の心身の健康づくりを行う必要があります。

図表5：出生率の推移



	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
熊取町出生数(人)	376	329	276
熊取町出生率(%)	8.4	7.5	6.2
大阪府出生率(%)	8.8	8.6	8.1
国出生率(%)	8.4	8.5	8.0

資料：大阪府衛生統計年報

図表6：低出生体重児の割合　　（単位：%）

平成 27 年	熊取町	10.1
	大阪府	9.3
	国	9.6

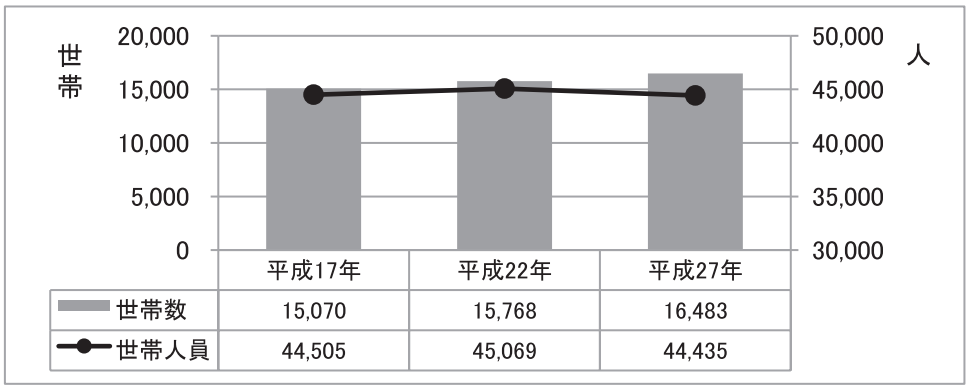
資料：熊取町の数値は平成 23 年～27 年の5か年平均値

1-2．世帯の状況

本町の世帯数は、図表７からわかるように、平成 22 年では人口の増加とともに増加していましたが、平成 27 年では、人口が減少したにもかかわらず世帯数は増加しています。

世帯の構成では、年代とともに「１人世帯」「２人世帯」の割合が増加しています。これまでの核家族化の進行とともに、高齢者の単身世帯や夫婦だけの世帯が増加していることがうかがえます。

図表7：世帯数と世帯人員の推移



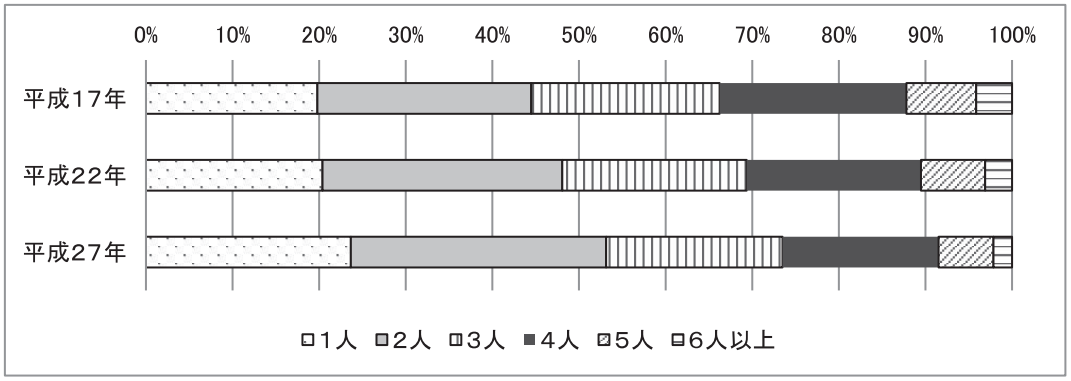
資料：国勢調査

図表8：世帯人員別世帯数　（単位：世帯）

	世帯人員										世帯数
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	計
平成 17 年	2,976	3,709	3,271	3,242	1,211	446	150	22	2	1	15,030
平成 22 年	3,208	4,353	3,350	3,164	1,165	362	107	16	1	3	15,729
平成 27 年	3,889	4,844	3,348	2,964	1,042	266	71	11	3	0	16,438

資料：国勢調査　※一般世帯のみ、施設等の世帯を除く。

図表9：世帯人員別の割合



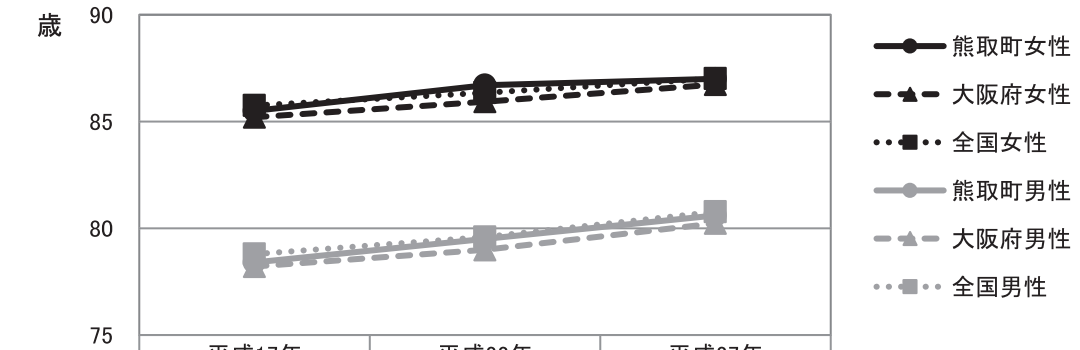
資料：国勢調査

1-3. 平均寿命と健康寿命

■平均寿命

本町の平均寿命は、平成 27 年で男性 80.6 歳、女性 87.0 歳となっており、全国と比較すると、男性は 80.77 歳を下回っていますが、女性は 87.01 歳とほぼ同じとなっています。平成 22 年から平成 27 年までの５年間では、男性は 1.1 歳、女性は 0.3 歳延びています。

図表 10:平均寿命



	平成17年	平成22年	平成27年
熊取町女性	85.5	86.7	87.0
大阪府女性	85.20	85.93	86.73
全国女性	85.75	86.35	87.01
熊取町男性	78.4	79.5	80.6
大阪府男性	78.21	78.99	80.23
全国男性	78.79	79.59	80.77

資料:厚生労働省　都道府県(市町村)別生命表の概況

【平均寿命とは】

「平均寿命」は０歳時点の平均余命で、すべての年齢の人の死亡率をもとに計算しており、その時点の集団全体として「何歳まで生きられるのかの平均的な年数」をいいます。

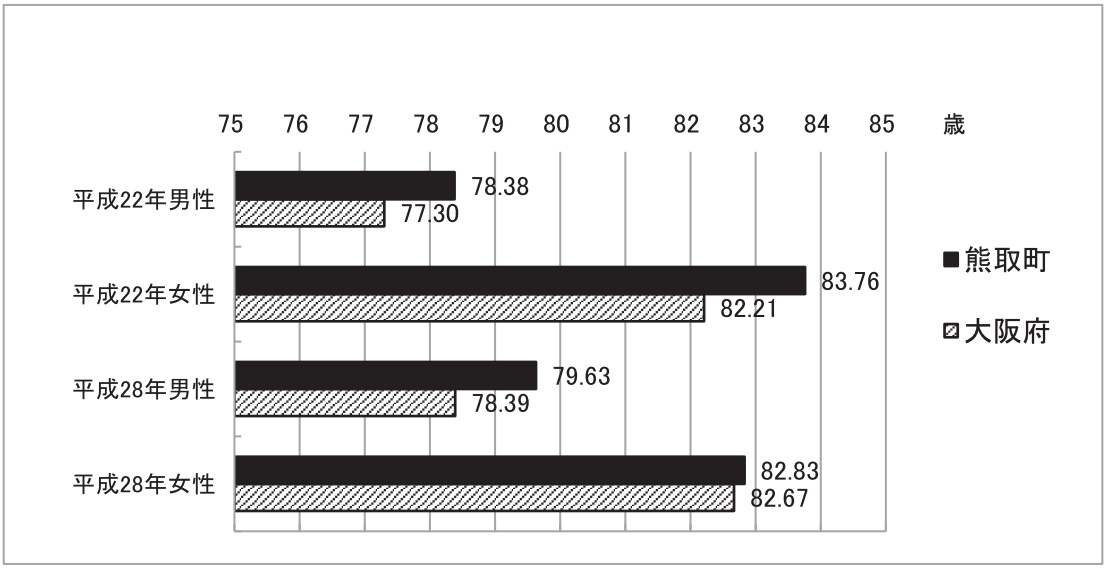
■健康寿命

本町の健康寿命は、平成 28 年で男性 79.63 歳、女性 82.83 歳となっており、平成 22 年・28 年ともに、男女で大阪府の値を上回っています。

一方、町の経年比較では、平成 22 年の値から男性は 1.25 歳延びていますが、女性は 0.93 歳下がっています。

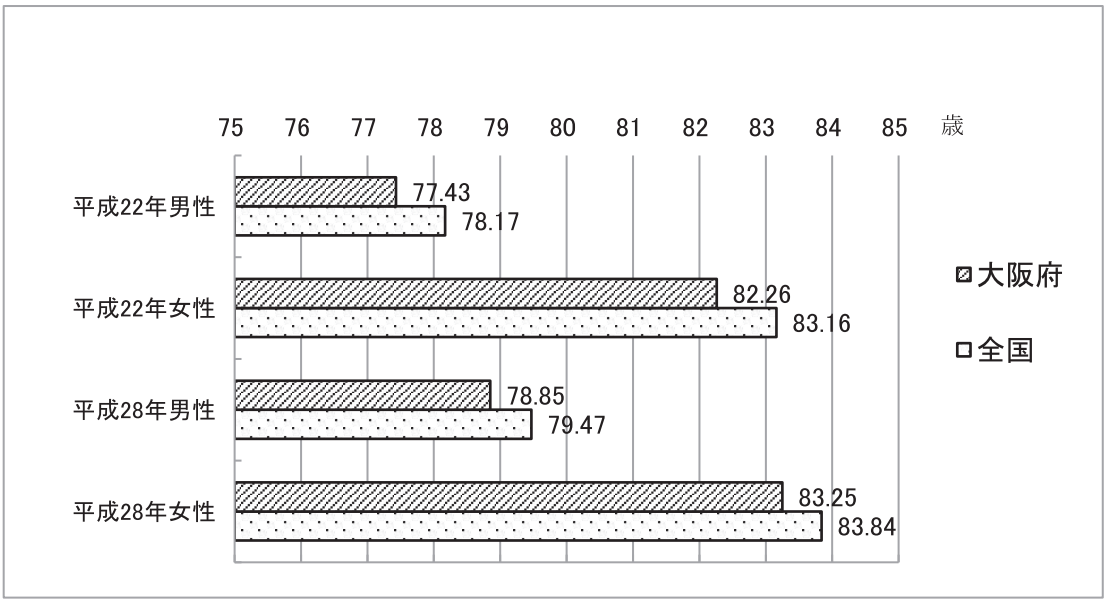
なお、町・府・全国で、同じ条件により算出した健康寿命がないため、一律に比較することはできませんが、参考までに図表 12 で大阪府と全国の健康寿命を記載しています。

図表 11：熊取町と大阪府の健康寿命



資料：大阪府健康づくり課による算出（毎年、大阪府集計）

図表 12：大阪府と全国の健康寿命



資料：厚生労働科学研究班による算出（3年毎、全国集計）

【健康寿命とは】

「健康寿命」は健康な状態で生存する期間をいいます。

いくつかの算出方法がありますが、ここでは、健康寿命を「日常生活動作が自立している期間の平均」と考え、「要介護認定２～５でない期間の平均」として算出しています。

1-4．死因別死亡数

本町の平成 28 年の死因の第１位は悪性新生物、第２位は心疾患、第３位は肺炎、第４位は脳血管疾患、第５位は不慮の事故となっています。

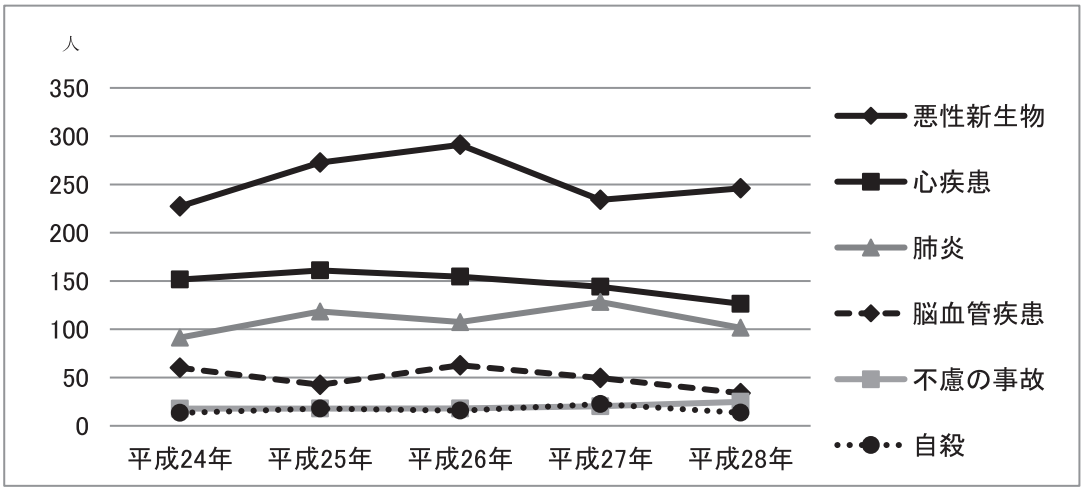
国・府と比較すると、第１位から第４位まで同じ死因です。

図表 13:主要疾病別死亡数　（単位:人）

		1位	2位	3位	4位	5位
熊取町	平成25年	悪性新生物(122)	心疾患(72)	肺炎(53)	脳血管疾患(19)	不慮の事故・自殺(8)
	平成26年	悪性新生物(130)	心疾患(69)	肺炎(48)	脳血管疾患(28)	老衰(10)
	平成27年	悪性新生物(104)	心疾患(64)	肺炎(57)	脳血管疾患(22)	自殺(10)
	平成28年	悪性新生物(109)	心疾患(56)	肺炎(45)	脳血管疾患(15)	不慮の事故(11)
府	平成25～28年	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	老衰
国	平成25～28年	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	老衰

資料:熊取町:大阪府　死亡数、性・死因(死因分類)・市町村別
府:年齢階級別死因順位・死亡数及び割合・総数・男女
国:厚生労働省人口動態統計の概況

図表 14:主要死因別死亡率の年次推移(人口 10 万対)



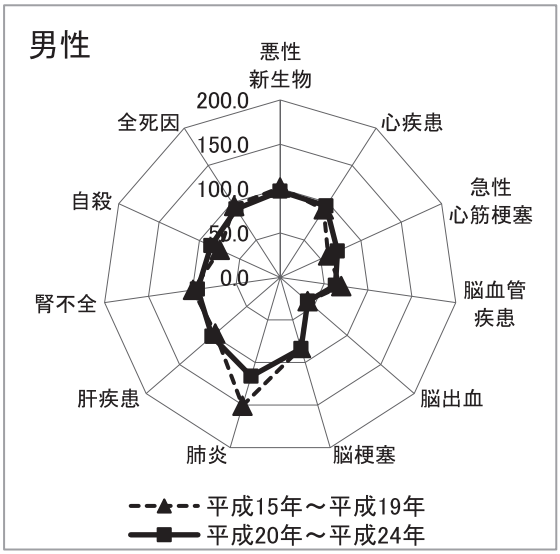
資料:大阪府人口動態(死亡数、性・死因分類・市町村別)・大阪府の推計人口より

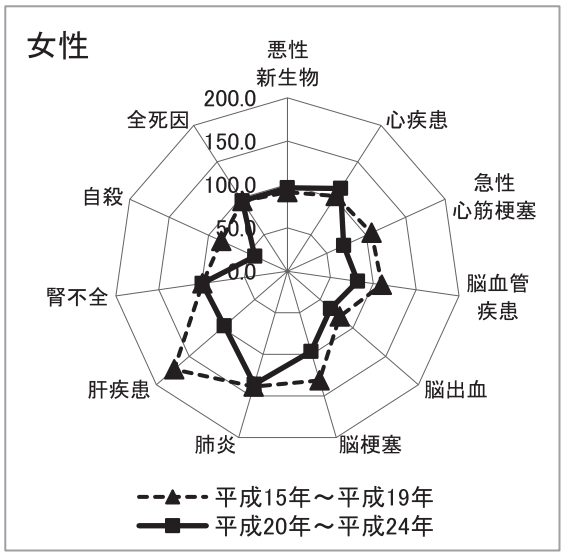
1）主要死因別標準化死亡比

生活習慣病に係る主要死因別標準化死亡比について、男性は悪性新生物、女性は急性心筋梗塞、脳血管疾患、脳梗塞、肝疾患が平成 15 年～平成 19 年では全国を上回っていましたが、平成 20 年～平成 24 年では全国を下回りました。

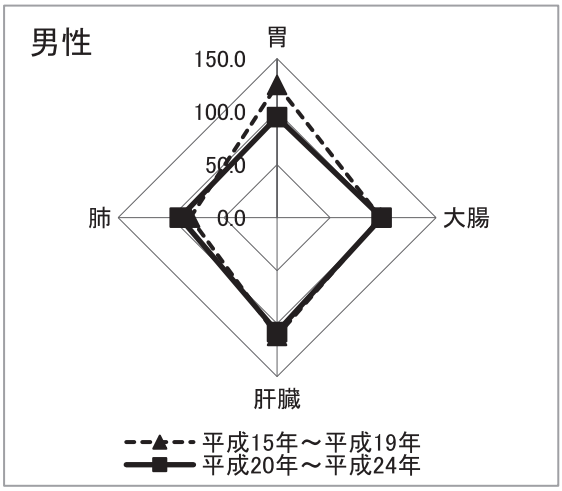
また、がんの主要死因別標準化死亡比について、男性は胃がんが平成 15 年～平成 19 年では全国を上回っていましたが、平成 20 年～平成 24 年では全国を下回りました。女性は、大腸がんと肺がんが大きく増加しました。

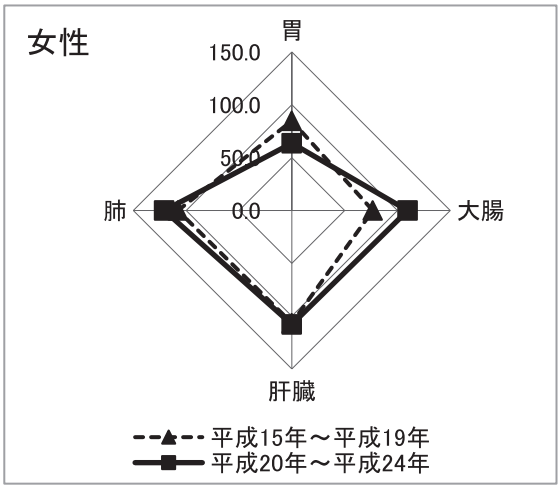
図表 15：主要死因別標準化死亡比（SMR）





図表 16：がんの主要死因別標準化死亡比（SMR）





資料：大阪府泉佐野保健所

※ 標準化死亡比とは

高齢化率などの人口構成の影響を除外したうえで、市町村の死亡率が全国の何倍かを表したものです。（全国を「1」とします。）

地域の特徴を表す簡単な指標です。

1-5．自殺の状況

本町の自殺者数は、過去５年間（平成25～29年）でみると、総数で28人となっており、平成27年の11人を最大に年間４～５人で推移しています。

性・年代別では、40歳代男性および20歳代男性の割合が、大阪府や全国と比較して本町は高くなっており、比較的若年層の自殺者が多い状況です。

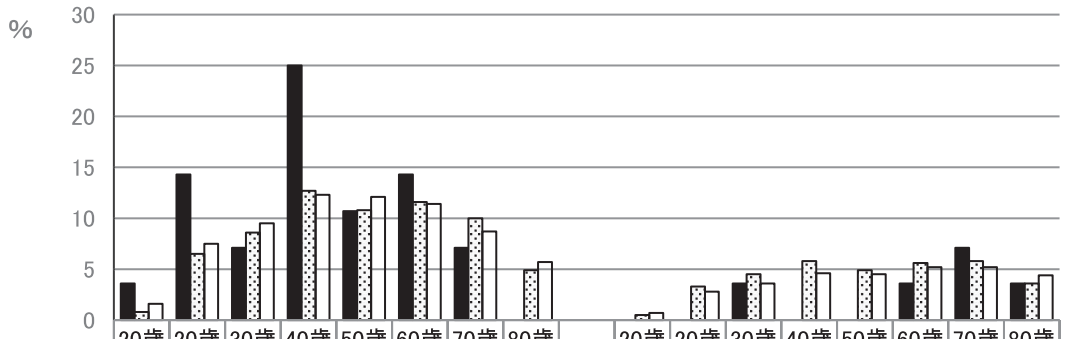
さらに、職業別・同独居別でみると、本町の20～39歳では男女ともに「無職で同居」の割合が高くなっていますが、男性の「有職で独居」の割合も大阪府・全国と比較して高くなっています。40～59歳では、男性の「有職で同居」の割合が高く、60歳以上では、男女ともに「無職で同居」の割合が高くなっています。

図表 17：自殺者数の推移　（単位：人）

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
熊取町	4	5	11	4	4
大阪府	1,628	1,433	1,359	1,273	1,244
全国	27,041	25,218	23,806	21,703	21,127

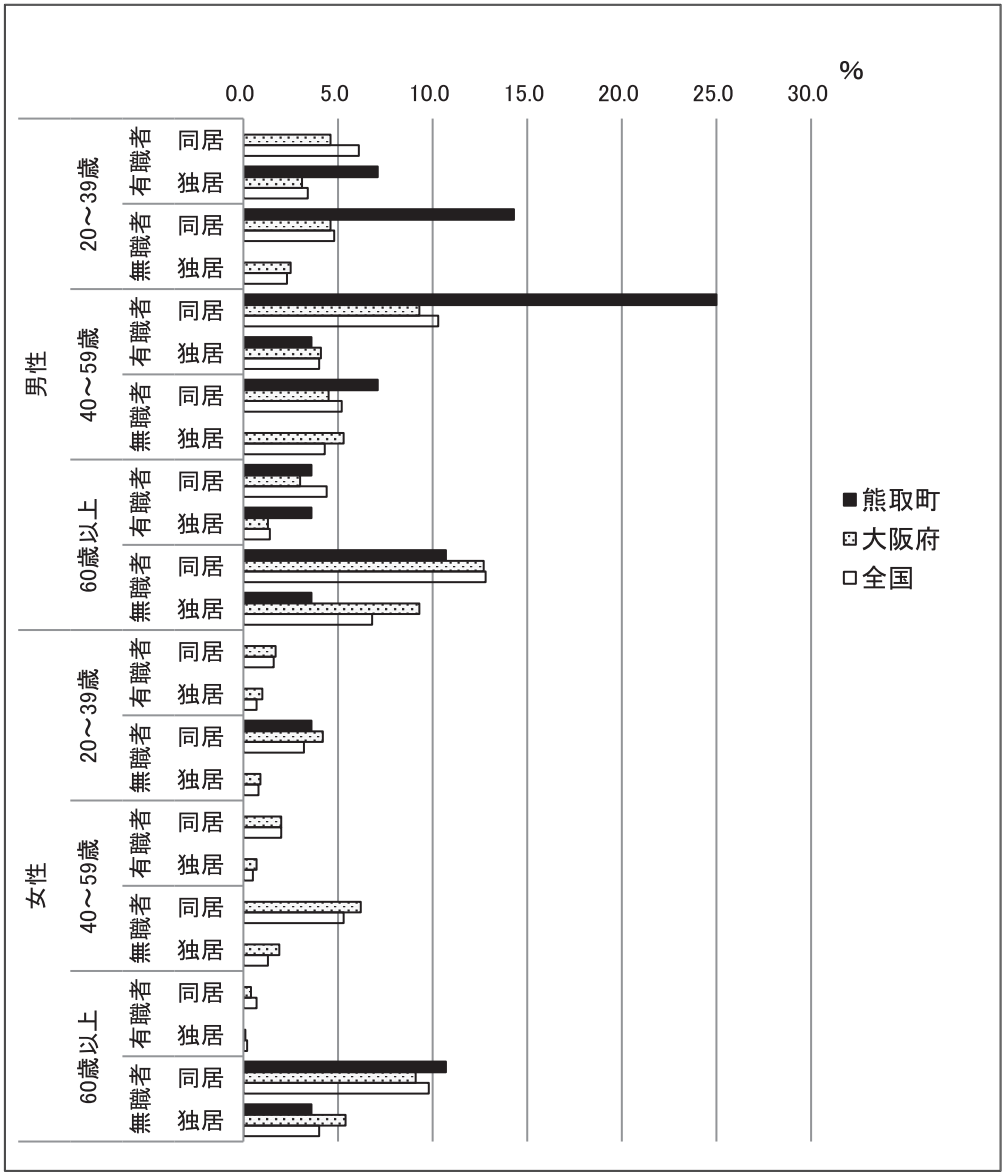
資料：地域自殺実態プロファイルデータ

図表 18：性・年代別自殺者の割合（平成 25～29 年平均）



	男性 20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	女性 20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
■熊取町	3.6	14.3	7.1	25.0	10.7	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	7.1	3.6
▨大阪府	0.8	6.5	8.6	12.7	10.8	11.6	10.0	4.9	0.5	3.3	4.5	5.8	4.9	5.6	5.8	3.6
□全国	1.6	7.5	9.5	12.3	12.1	11.4	8.7	5.7	0.7	2.8	3.6	4.6	4.5	5.2	5.2	4.4

図表19：性別・年齢階級別・職業別・同独居別の自殺者の割合（平成25～29年合計）



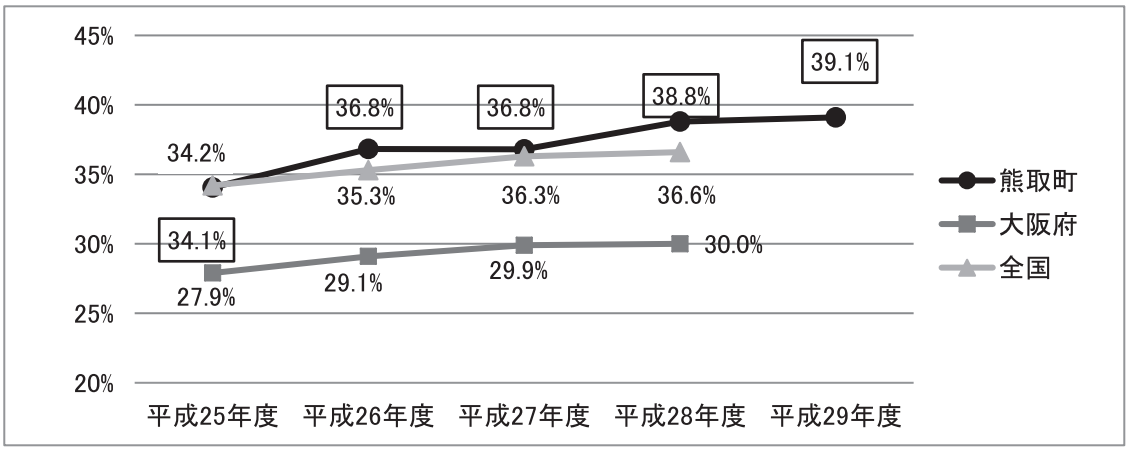
2. 各種健診・検診の実施状況

2-1. 特定健診・特定保健指導の実施状況

特定健診の受診率は、平成 28 年度は 38.8%と、国、府と比較しても高くなっています。平成 25 年度以降、特定健診受診率が上昇しており、平成 29 年度では約４割が特定健診を受診しています。

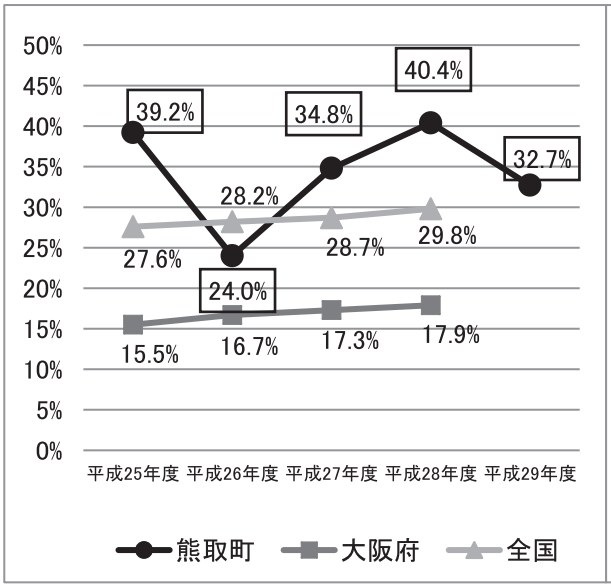
特定保健指導の利用率および実施率（終了率）は、おおむね大阪府・全国と比較してともに上回っていますが、平成 29 年度は減少しています。

図表 20:特定健診受診率の年次推移(市町村国保)

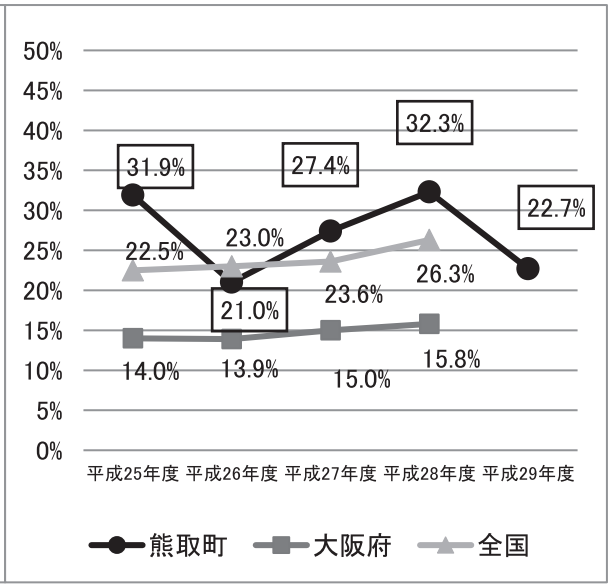


資料:特定健康診査・特定保健指導　法定報告

図表 21:特定保健指導利用率の推移



図表 22:特定保健指導実施率(終了率)の推移



資料:特定健康診査・特定保健指導　法定報告

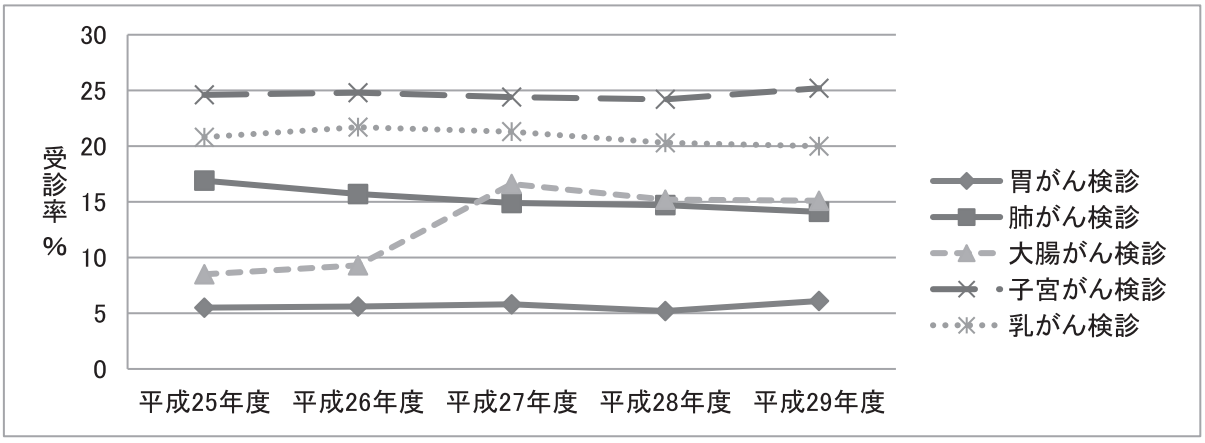
2-2. がん検診の受診状況

大腸がん検診は、平成 27 年度より医療機関での個別検診を導入したことに加えて費用を無料化したことから、受診率が前年度に比べ 7.2 ポイント増加しています。

胃がん・子宮がん検診の受診率は横ばいで推移しており、肺がん・乳がん検診は年々減少しています。

大阪府と比較すると、平成 27 年度はすべてのがん検診率が上回っています。

図表 23:がん検診受診率の年次推移(熊取町)



資料:熊取町保健事業報告書

※ 受診率の考え方･･･分母は推計人口(町算出)

図表 24:がん検診受診率の年次推移(大阪府・熊取町) (単位:%)

年度		胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮がん検診	乳がん検診
平成25年度	熊取町	6.5	16.1	8.6	23.6	20.7
	大阪府	5.5	10.0	15.1	22.6	17.0
平成26年度	熊取町	7.0	15.3	9.6	23.8	22.1
	大阪府	5.5	11.4	15.5	23.7	18.5
平成27年度	熊取町	6.3	14.4	16.8	24.3	21.6
	大阪府	5.5	12.2	16.0	23.9	18.2

資料:大阪府 HP:府内市町村のがんの検診の成績

※ 対象は 40～69 歳、子宮は 20～69 歳

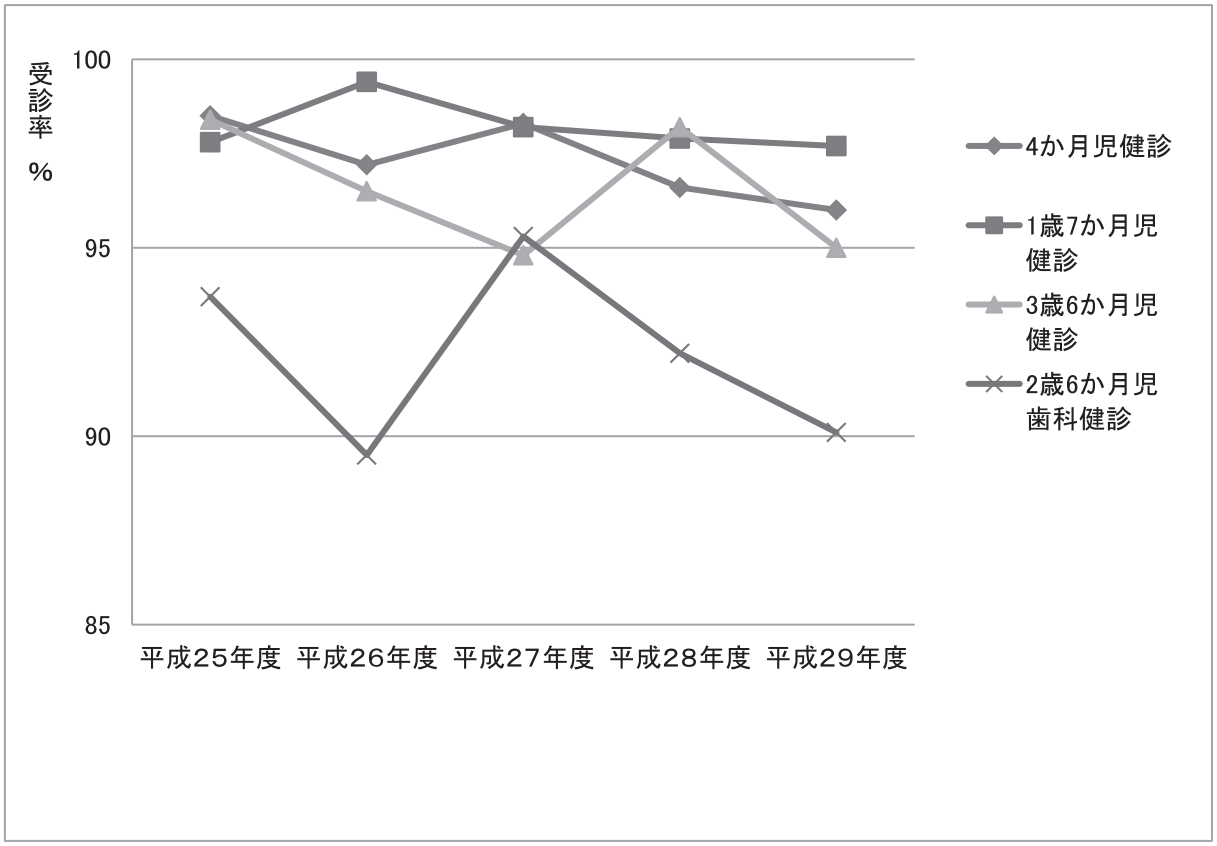
※ 受診率の考え方･･･分母は推計人口(H27～府算出)

2-3. 乳幼児健診の受診状況

ほとんどの乳幼児健診は、95%を超える受診率を維持しています。２歳６か月児歯科健診においては、歯科相談だけでなく発達面の相談もできるよう、平成 24 年度から保健師による全数面接を開始しました。いずれの乳幼児健診についても、虐待予防の観点から、未受診者の把握に努め、全数把握しています。

また、妊娠期からの保健指導を重視し、妊娠届出時に保健師による全数面接を実施し、ハイリスク妊婦への保健指導や訪問等も実施しています。

図表 25:乳幼児健診の受診状況



資料:熊取町集計

３．アンケート調査結果等からみる住民の健康状態や意識

「第３次健康くまとり 21」の策定にあたり、子どもから高齢者までの幅広い年代層のデータを集め、生活習慣の実態、健康に関する意識や行動を把握し、計画の基礎資料とするとともに、「第２次健康くまとり 21」で設定した目標値の経年比較を通して第２次計画の最終評価を行うことを目的として、平成 29 年度に「健康に関するアンケート調査」を実施しました。調査のおもな結果は次のとおりです。

■　調査方法

調査対象者	１歳児から小学３年生までの子どもを持つ 20 歳以上の保護者	①１歳７か月児健診（９・10 月実施分）・２歳６か月児歯科健診（９月実施分）・３歳６か月児健診（８・９月実施分）の受診対象者計 163 名に郵送で配布・健診時に回収 ②４歳児～小学３年生の子どもを持つ保護者を無作為に 408 名抽出し、郵送で配布・回収
	小学６年生・中学２年生	町立小学校（５校）及び中学校（３校）に在籍する全小学６年生と中学２年生の計 896 名を対象に、各学校を通じて配布・回収
	20 歳以上の住民	無作為に 1,902 名抽出し、郵送で配布・回収
調査期間	平成 29 年７月７日～10 月３日	

■　回収結果

対象者	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
子どもを持つ保護者	571	295	51.7%	292	51.1%
小学６年生・中学２年生	896	872	97.3%	836	93.3%
20 歳以上の住民	1,902	671	35.3%	646	34.0%

3-1．食生活・食育

1）朝食の摂取状況

朝食摂取について、アンケート調査結果より「ほとんど毎日食べる」割合が、1歳～小3は平成25年からほぼ横ばいですが、小6・中2は平成25年90%から平成29年88.4%と減少しました。また、20歳以上は、ほぼ横ばいですが、20歳代が平成25年80.6%から平成29年58.2%と大幅に減少しています。

学童期および20歳代へのアプローチとその方法の検討が必要となります。

Q.朝食を食べますか。

（単位：%）

区分	ほとんど毎日食べる	週2～3日食べない	週4～5日食べない	ほとんど食べない	無回答
未就園児	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所・幼稚園	94.9	3.6	0.0	1.4	0.0
小学校	94.0	5.2	0.0	0.9	0.0
1歳～小3（H29）	**95.2**	**3.8**	**0.0**	**1.0**	**0.0**
1歳～小3（H25）	**95.7**	**2.1**	**0.3**	**1.6**	0.0
小6	91.4	5.6	1.2	1.9	0.0
中2	85.2	6.7	3.4	4.7	0.0
小6・中2（H29）	**88.4**	**6.1**	**2.3**	**3.2**	**0.0**
小6・中2（H25）	**90.0**	**5.3**	**1.6**	**3.0**	**0.2**
20歳代	58.2	12.7	7.3	21.8	0.0
20歳代（H25）	80.6	6.9	2.8	9.7	0.0
30歳代	89.1	4.2	1.3	5.0	0.4
40歳代	92.8	2.2	0.6	4.4	0.0
50歳代	89.5	4.8	0.0	5.7	0.0
60歳代	94.0	2.2	0.5	3.3	0.0
70歳以上	98.9	1.1	0.0	0.0	0.0
20歳以上（H29）	**90.8**	**3.4**	**1.0**	**4.7**	**0.1**
20歳以上（H25）	**91.1**	**2.9**	**1.3**	**4.3**	**0.5**

2）欠食の理由

朝食欠食する理由は、小6・中2では平成25年と同様に1位は「食欲がないから」、2位は「食べる時間がないから」となっており、あわせて約8割を占めています。

20歳以上については、全体では平成25年は「習慣がない」が1位でしたが、平成29年は「食欲がない」が35.7%で1位でした。また、20歳代は「食べる時間がない」が43.5%で1位となっています。

Q.朝食を食べない理由

【小学6年・中学2年】	【20 歳以上　1位の項目】
1位　食欲がない（45.4%）	20 歳代　食べる時間がない（43.5%）
2位　食べる時間がない（35.1%）	30 歳代　食欲がない（44.0%）
3位　習慣がない（8.2%）	40 歳代　食欲がない（38.5%）
	50 歳代　食欲がない（40.0%）
	60 歳代　食欲がない（45.5%）
	70 歳以上　習慣がない（100.0%）

3）朝食の内容

朝食内容について、全年代で「主菜」「副菜」を摂る割合が増加しました。

全年代で「菓子パン」を食べる割合が平成 25 年と比べ増加し、特に「1 歳から小3までと 20 歳代で「菓子パン」を食べている割合が 30%を超え、高くなっています。朝食摂取の習慣づけに加え、簡単でバランスのとれる朝食の提案などが必要です。

Q.普段、朝食にどんなものを食べていますか。

（単位：%）

区分	主食	主菜	副菜	果物	牛乳・乳製品	嗜好飲料	菓子パン	その他
未就園	97.3	35.1	29.7	62.2	75.7	10.8	43.2	2.7
保育所・幼稚園	95.7	30.4	23.2	39.9	65.9	13.8	30.4	4.3
小学校	93.1	33.6	17.2	41.4	63.8	12.9	36.2	4.3
1歳～小3（H29）	**95.2**	**32.3**	**21.6**	**43.3**	**66.3**	**13.1**	**34.4**	**4.1**
1歳～小3（H25）	**95.2**	**30.8**	**19.6**	**37.3**	**66.5**	**17.7**	**30.6**	**1.9**
小6	95.1	26.7	17.0	24.7	37.9	20.0	20.2	2.8
中2	91.9	18.2	12.1	18.5	31.5	16.5	24.4	2.0
小6・中2（H29）	**93.5**	**22.6**	**14.6**	**21.7**	**34.8**	**18.3**	**22.2**	**2.4**
小6・中2（H25）	**93.7**	**20.9**	**13.6**	**23.7**	**34.9**	**25.2**	**18.5**	**1.8**
20 歳代	80.0	10.9	5.5	14.5	34.5	25.5	40.0	3.6
20 歳代（H25）	91.7	22.2	13.9	23.6	40.3	22.2	18.1	4.2
30 歳代	90.3	23.9	18.5	29.4	55.0	37.8	25.6	3.4
40 歳代	90.1	28.2	22.1	29.8	58.6	43.1	21.5	2.2
50 歳代	83.8	29.5	25.7	27.6	53.3	45.7	15.2	1.0
60 歳代	92.3	36.3	37.9	42.9	56.0	53.3	7.7	2.7
70 歳以上	96.0	42.9	57.1	46.9	62.1	49.7	7.3	3.4
20 歳以上（H29）	**90.4**	**30.6**	**30.3**	**34.3**	**55.9**	**44.2**	**17.6**	**2.8**
20 歳以上（H25）	**93.2**	**25.7**	**28.2**	**33.9**	**54.1**	**42.8**	**14.1**	**2.7**

※H25 では「菓子・菓子パン」の項目を、H29 は「菓子パン」としている。

主食の内訳（複数回答）　（単位：%）

区分	主食	ごはん	パン	めん	その他
1歳～小3	94.8	54.3	71.5	3.1	3.1
小6・中2	93.5	35.8	45.3	1.9	1.6
20 歳以上	90.4	33.6	64.8	1.5	2.6

4）減塩への関心（新規）

減塩に関して「関心がない」割合は 30 歳代以降では 16%以下ですが、20 歳代は 40%を超えています。減塩を「実行している」割合は年齢と共に増加する傾向が見られます。

Q.普段の食事で、塩分を減らす事に関心がありますか。

（単位：%）

区分	関心がない	関心はあるが実行していない	実行している	無回答
20 歳代	43.6	47.3	9.1	0.0
30 歳代	14.3	58.0	27.7	0.0
40 歳代	16.0	57.5	26.5	0.0
50 歳代	15.2	42.9	41.0	1.0
60 歳代	9.3	37.9	52.2	0.5
70 歳以上	9.6	26.0	62.7	1.7
20 歳以上（H29）	**14.6**	**45.7**	**39.2**	**0.5**

5）野菜の摂取状況

野菜を摂取することは、カリウム、ビタミン C、食物繊維などを摂ることができ、生活習慣病やがんの予防が期待され、第２次健康日本 21 でも、１日当たり平均 350g 摂取することを目標としています。

１日に野菜を食べる回数は、20 歳以上では、平成 25 年に引き続き「２回」が 47.2%となっています。20 歳代と男性では「１回」が 40%台と平成 25 年より 15%以上高くなっています。また、男性の約半数が「１回」または「０回」と野菜の摂取が少なくなっています。

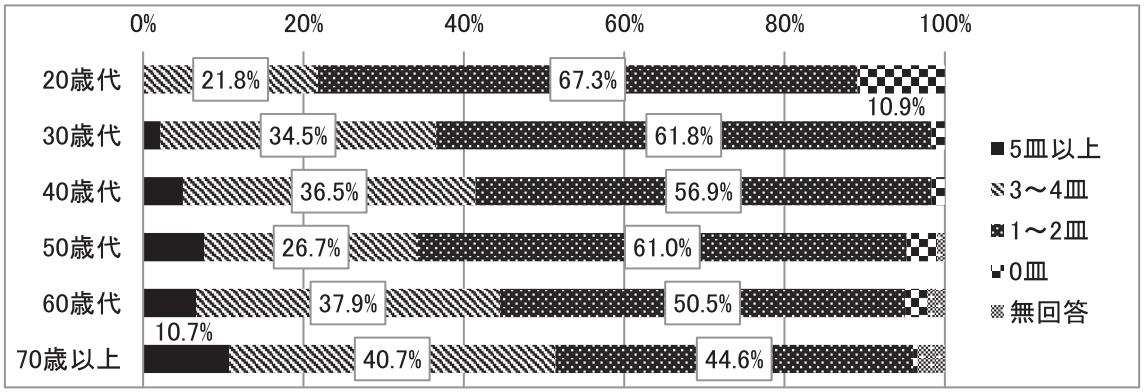
Q.普段、1 日何回野菜を食べますか。

（単位：%）

区分	3 回以上	2 回	1 回	0 回
20 歳代	9.1	38.2	47.3	5.5
20 歳代（H25）	**23.6**	**40.3**	**31.9**	**4.2**
30 歳代	16.8	56.7	26.1	0.4
40 歳代	15.5	45.9	37.6	1.1
50 歳代	19.0	39.0	38.1	3.8
60 歳代	24.2	43.4	30.2	2.2
70 歳以上	31.6	47.5	20.9	0.0
男性	**14.3**	**39.7**	**42.7**	**3.3**
女性	**23.6**	**50.9**	**24.9**	**0.6**
20 歳以上（H29）	**20.6**	**47.2**	**30.7**	**1.5**
20 歳以上（H25）	**24.2**	**45.1**	**28.6**	**1.4**

Q.普段、1日何皿野菜を食べますか。（1皿 70g 程度）（新規）

すべての年代において、１日に野菜を食べる皿数は「１～２皿」の割合が高く、20歳代から 50 歳代では６割前後となっています。



６）間食の摂取状況

間食の摂取について、「食べる時間や回数が決まっていない」割合が、１歳～小３では 23.4%、小６・中２では約半数、20 歳以上では 43.7%となっていますが、全体で平成 25 年より３%減少しました。

Q.普段、おやつ（食後や夜食を含む）を食べる時間や回数は決まっていますか。

（単位：%）

区分	ほとんど食べない	決まっている（1 日 1 回）	決まっている（1日2回）	食べるが時間や回数は決まっていない	無回答
1 歳～小 3（H29）	2.4	55.0	19.2	23.4	0.0
1 歳～小 3（H25）	4.8	53.1	15.0	26.3	0.8
小6・中2（H29）	20.8	22.5	4.8	51.8	0.1
小6・中2（H25）	22.8	22.8	3.7	50.5	0.1
20 歳以上（H29）	23.1	24.8	7.6	43.7	0.7
20 歳以上（H25）	23.7	22.4	7.9	45.0	0.9

７）３つの食品群、食事バランスガイド、食品表示

バランスよく食品を摂取するための知識を伝える媒体として、「３つの食品群」や「食事バランスガイド」があります。また、消費者が食材を購入する際の情報源として、「食品表示」があり、活用することが望まれます。

「３つの食品群」については、「見たことがあり意味もだいたいわかる」割合が小６・中２で 87.1%と平成 25 年より増加しています。20 歳以上全体では約７割ですが、年代が高くなるほど減少し、70 歳以上では約半数にとどまります。

Q.「3つの食品群」の表を見たことがありますか。
また、この食品群の意味がわかりますか。

（単位：%）

区分	見たことがあり、意味もだいたいわかる	見たことはあるが、意味はわからない	見たことがない	無回答
小6	93.0	4.9	0.9	1.2
中2	80.8	16.5	1.7	1.0
小6・中2（H29）	**87.1**	**10.5**	**1.3**	**1.1**
小6・中2（H25）	**81.0**	**17.2**	**1.4**	**0.4**
20 歳代	76.4	18.2	5.5	0.0
30 歳代	81.1	18.1	0.8	0.0
40 歳代	79.0	12.7	8.3	0.0
50 歳代	66.7	21.0	12.4	0.0
60 歳代	63.2	13.7	22.5	0.5
70 歳以上	49.2	11.9	36.2	2.8
20 歳以上（H29）	**69.3**	**15.3**	**14.7**	**0.6**
20 歳以上（H25）	**72.3**	**14.7**	**12.0**	**1.0**

「食事バランスガイド」については、「見たことがあり、意味もだいたいわかる」割合は、小６・中２では 20.5%、20 歳以上では 43.0%と、平成 25 年より減少しています。

Q.「食事バランスガイド」を見たことがありますか。
また、このガイドの意味がわかりますか。

（単位：%）

区分	見たことがあり、意味もだいたいわかる	見たことはあるが、意味はわからない	見たことがない	無回答
小6	17.0	36.5	45.8	0.7
中2	24.1	48.5	27.1	0.2
小6・中2（H29）	**20.5**	**42.3**	**36.7**	**0.5**
小6・中2（H25）	**30.9**	**54.1**	**15.1**	**－**
20 歳代	45.5	30.9	23.6	0.0
30 歳代	62.6	25.2	12.2	0.0
40 歳代	53.6	20.4	26.0	0.0
50 歳代	31.4	23.8	44.8	0.0
60 歳代	33.0	16.5	50.0	0.5
70 歳以上	22.6	14.1	61.0	2.3
20 歳以上（H29）	**43.0**	**20.7**	**35.8**	**0.5**
20 歳以上（H25）	**46.2**	**21.3**	**31.5**	**1.1**

「食品表示」については、「賞味期限・消費期限」を参考に食品を購入する割合が、小６・中２は 66.6%、20 歳以上は 83.0%と一番高く、「食品の産地」が次に続きます。

Q.外食する時や食材を購入する時に、どのような食品表示を参考にしていますか。（複数回答）

（単位：%）

区分	食品の産地	栄養成分表示	食品添加物	原材料名	賞味期限・消費期限	アレルギー表示	参考にしていない	その他
小6・中2（H29）	42.0	25.1	10.4	20.0	66.6	10.5	17.9	5.6
小6・中2（H25）	43.8	24.3	8.6	20.2	66.3	－	21.7	3.0
20 歳以上（H29）	76.9	32.1	36.5	37.6	83.0	6.7	4.5	1.9
20 歳以上（H25）	76.8	33.6	37.0	33.2	81.9	－	5.7	1.2

※アレルギー表示については、H29 よりの項目となっている。

「栄養成分表示」は、全体では「ほとんど参考にしない」割合が 40.6%と一番多く、「いつも参考にして選ぶ・ときどき参考にして選ぶ」割合は、50 歳代・60 歳代は５割弱、70 歳以上では５割を超えています。

Q.栄養成分表示を参考にしてメニューを選びますか。（新規）

（単位：%）

年齢	いつも参考にして選ぶ	ときどき参考にして選ぶ	ほとんど参考にしない	見たことがない	わからない	無回答
20 歳代	0.0	34.5	36.4	14.5	10.9	3.6
30 歳代	5.0	37.4	47.1	4.6	3.4	2.5
40 歳代	3.3	36.5	43.1	9.4	3.9	3.9
50 歳代	12.4	35.2	41.0	6.7	2.9	1.9
60 歳代	4.4	44.0	39.6	3.3	3.3	5.5
70 歳以上	10.2	41.2	31.6	4.5	5.1	7.3
20 歳以上（H29）	**6.1**	**38.8**	**40.6**	**6.1**	**4.2**	**4.3**

８）熊取町の特産物について

地域の伝統的な食文化を活かし、食に関する関心や理解を深めるためには、地域の特産物にふれる経験が重要となってきます。

「熊取町の特産物を知っている」割合は、小６・中２、20 歳以上ともに８割弱となっています。また、「熊取町の特産物を食べたことがある」割合は、小６・中２、20 歳以上ともに８割を超えており、20 歳以上については、平成 25 年より１割程度増加しています。

Q.熊取町の特産物（ふき、サトイモ、水なす等）を知っていますか。

（単位：%）

区分	はい	いいえ	無回答
小6	81.4	18.4	0.2
中2	73.9	25.6	0.5
小6・中2（H29）	**77.8**	**21.9**	**0.4**
20 歳代	69.1	30.9	0.0
30 歳代	72.7	27.3	0.0
40 歳代	73.5	26.5	0.0
50 歳代	73.3	26.7	0.0
60 歳代	76.9	23.1	0.0
70 歳以上	88.7	10.7	0.6
20 歳以上（H29）	**76.5**	**23.3**	**0.1**

Q.熊取町の特産物（ふき、サトイモ、水なす等）を食べたことがありますか。

（単位：%）

区分	はい	いいえ	無回答
小6	86.5	13.0	0.5
中2	79.3	20.4	0.2
小6・中2（H29）	**83.0**	**16.6**	**0.4**
20 歳代	76.4	23.6	0.0
30 歳代	79.4	20.6	0.0
40 歳代	84.0	16.0	0.0
50 歳代	80.0	20.0	0.0
60 歳代	89.0	11.0	0.0
70 歳以上	92.7	7.3	0.0
20 歳以上（H29）	**84.5**	**15.5**	**0.0**
20 歳以上（H25）	**73.6**	**25.9**	**0.5**

９）栽培体験について

小６・中２の８割以上に、野菜やお米などの栽培体験があります。

20 歳以上のどの年代も、５割程度の人に栽培体験があります。

Q.野菜やお米などの栽培を体験したことがありますか。

（単位：%）

区分	はい	いいえ	無回答
小6	86.0	13.7	0.2
中2	86.0	13.1	1.0
小6・中2（H29）	**86.0**	**13.4**	**0.6**
20 歳代	69.1	29.1	1.8
30 歳代	64.7	33.6	1.7
40 歳代	55.8	40.3	3.9
50 歳代	46.7	51.4	1.9
60 歳代	48.9	48.4	2.7
70 歳以上	58.8	39.5	1.7
20 歳以上（H29）	**57.0**	**40.6**	**2.3**
20 歳以上（H25）	**58.8**	**40.6**	**0.6**

１０）共食の状況

家族で食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションをとる「共食」は、食育の原点となります。共食は、日常生活の中で食事のマナーなど食生活に関する基礎を習得する機会であり、食の楽しさを実感し、精神的な豊かさをもたらす大切な時間と場であり、可能な限り推進したいものです。

朝食の共食について、共食の割合（「家族全員」及び「家族の誰かと」食べると回答した割合の合計）が１歳～小３で 93.8%、小６・中２で 71.0%と、いずれも平成 25 年と大きく変化はありません。

夕食の共食について、共食の割合（「家族全員」及び「家族の誰かと」食べると回答した割合の合計）が１歳～小３で 94.9%、小６・中２で 83.0%と、いずれも朝食よりは高いものの、平成 25 年より減少しています。

Q.普段、だれと一緒に食事をすることが多いですか。

①朝食

（単位：%）

区分	家族全員	家族の誰かと	ひとりで	その他	無回答
保育所・幼稚園	19.6	76.1	2.9	0.0	1.4
未就園児	2.7	89.2	8.1	0.0	0.0
小学校	20.7	71.6	6.9	0.9	0.0
1歳～小3（H29）	**17.9**	**75.9**	**5.2**	**0.3**	**0.7**
1歳～小3（H25）	**15.0**	**78.0**	**5.9**	**0.5**	**0.5**
小6	19.5	63.7	15.1	0.7	0.9
中2	10.3	47.5	39.4	1.2	1.5
小6・中2（H29）	**15.1**	**55.9**	**26.9**	**1.0**	**1.2**
小6・中2（H25）	**17.6**	**53.9**	**26.8**	**0.7**	**1.0**

②夕食　（単位：%）

区分	家族全員	家族の誰かと	ひとりで	その他	無回答
保育所・幼稚園	37.7	55.1	1.4	0.0	5.8
未就園児	37.8	62.2	0.0	0.0	0.0
小学校	41.4	54.3	0.0	0.0	4.3
1歳～小3（H29）	**39.2**	**55.7**	**0.7**	**0.0**	**4.5**
1歳～小3（H25）	**42.6**	**54.4**	**0.5**	**0.0**	**2.4**
小6	43.5	43.0	1.9	1.6	10.0
中2	35.2	44.1	8.1	0.7	11.8
小6・中2（H29）	**39.5**	**43.5**	**4.9**	**1.2**	**10.9**
小6・中2（H25）	**44.9**	**43.5**	**3.7**	**1.0**	**6.9**

１１）食育への関心

食の多様化が進む中、食習慣の乱れに起因する生活習慣病の増加や、地域の伝統的な食文化が失われつつあります。まず食育への関心を高めることで、知識を得、そして行動につながると考えられます。

小６・中２について、食育が「大切だと思う」割合が 76.6%となっており、平成 25 年からわずかに増加しています。

Q.「食育」が大切だと思いますか。　（単位：%）

区分	大切だと思う	思わない	わからない	無回答
小6	83.5	2.1	13.0	1.4
中2	69.2	6.2	23.6	1.0
小6・中2（H29）	**76.6**	**4.1**	**18.2**	**1.2**
小6・中2（H25）	**75.5**	**6.0**	**17.8**	**0.7**

20 歳以上について、「食育に関心がある・どちらかと言えば関心がある」割合が 72.1%と平成 25 年よりわずかに減少していますが、30 歳代で最も多く 87.8%となっています。また、男性の 52.1%に対し、女性は 81.8%と、女性の方が食育への関心が高くなっています。

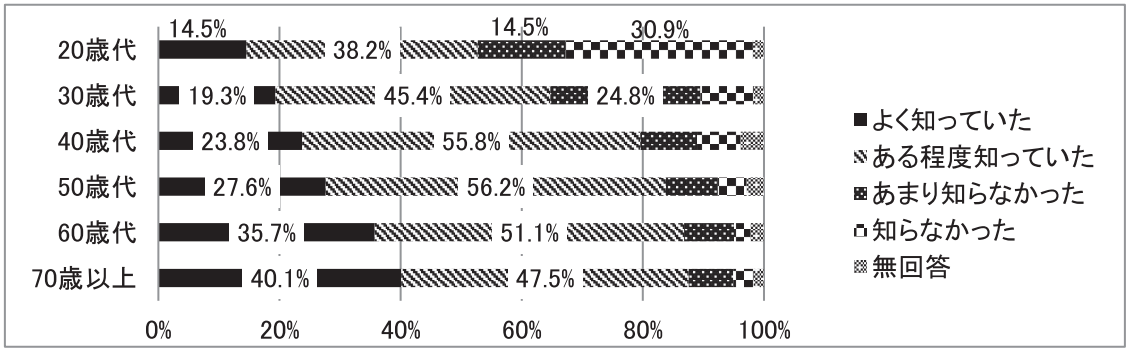
Q.「食育」に関心がありますか。　（単位：%）

年齢	関心がある	どちらかと言えば関心がある	どちらかと言えば関心がない	関心がない	わからない	無回答
20 歳代	10.9	38.2	25.5	14.5	9.1	1.8
30 歳代	32.8	55.0	3.8	2.5	4.2	1.7
40 歳代	24.3	48.1	17.7	2.8	3.3	3.9
50 歳代	26.7	35.2	21.0	5.7	7.6	3.8
60 歳代	22.0	40.1	22.0	8.2	5.5	2.2
70 歳以上	32.8	41.2	13.6	6.8	2.8	2.8
男性	**16.6**	**35.5**	**25.4**	**13.4**	**6.8**	**2.3**
女性	**32.2**	**49.6**	**10.0**	**1.7**	**3.6**	**2.9**
20 歳以上（H29）	**27.1**	**45.0**	**15.0**	**5.5**	**4.7**	**2.7**
20 歳以上（H25）	**28.1**	**45.8**	**13.6**	**4.0**	**5.7**	**2.7**

１２）食品ロス（新規）

「食品ロス」が問題になっていることを「よく知っていた・ある程度知っていた」割合が、40 歳以上で８割以上いるのに対し、30 歳代は約６割、20 歳代は約５割と低くなっています。

Q.「食品ロス」が問題になっている事を知っていましたか。　（単位：%）



１３）災害時への備え

非常用の食料の用意が「ある」と答えている人は全体で 43.1%と平成 25 年より増加しています。50 歳代では 30.5%と最も少なく、70 歳代では 53.1%と 20 ポイント以上の差があります。また、用意しているものは、平成 25 年と同様「飲料」が 39.0%と一番多く、次に「主食」の 29.6%となっています。

Q.あなたの世帯は、災害時に備えて非常用の食料を用意していますか。

（単位：%）

区分	ある	ない	無回答
20 歳代	38.2	61.8	0.0
30 歳代	37.8	62.2	0.0
40 歳代	42.0	56.9	1.1
50 歳代	30.5	69.5	0.0
60 歳代	50.0	50.0	0.0
70 歳以上	53.1	43.5	3.4
20 歳以上（H29）	**43.1**	**56.0**	**0.9**
20 歳以上（H25）	**35.3**	**63.3**	**1.4**

Q.非常用の食料として、どんなものを用意していますか。（複数回答）

（単位：%）

区分	主食	副食	飲料
20 歳代	25.5	16.4	27.3
30 歳代	28.2	18.1	34.9
40 歳代	28.2	21.0	35.4
50 歳代	21.9	15.2	27.6
60 歳代	30.8	30.2	47.8
70 歳以上	37.9	30.5	49.7
20 歳以上（H29）	**29.6**	**22.9**	**39.0**
20 歳以上（H25）	**25.5**	**18.8**	**31.1**

3-2．運動習慣

１）運動の状況

子どもの運動習慣については、「ほぼ毎日」と「週に３～４日くらい」の割合を合わせると、平成 25 年は１歳～小３合計で 68.9%、小６・中２合計は 70.9%であるのに対して、平成 29 年１歳～小３合計が 65.6%、小６・中２合計は 66.7%で、前回調査と比較するとやや減少しています。

Q.体育の授業以外（クラブ活動を含む）で、1 回 30 分以上の運動（体を動かす外遊びを含む）を、どれくらいしていますか

（単位：%）

区分	ほぼ毎日している	週に3～4日くらい	週に1～2日くらい	ほとんどしていない	無回答
1歳～小3合計（H29）	45.7	19.9	26.5	7.6	0.3
1歳～小3合計（H25）	46.4	22.5	18.0	11.5	1.6
小6・中2合計（H29）	48.3	18.4	18.9	13.2	1.2
小6・中2合計（H25）	52.5	18.4	16.1	12.2	0.7

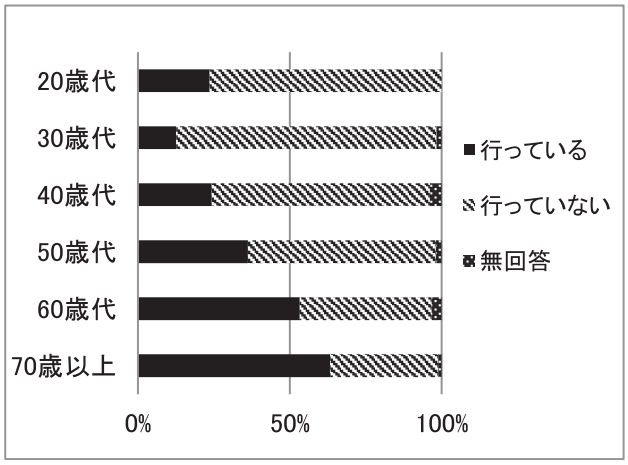
20 歳以上において、「１日 30 分以上軽く汗をかく運動を週２回以上、１年以上行っている」の割合が 60 歳代で５割を超えているのに対して、若い世代では運動を行っている割合が低く、特に 30 歳代が 12.6%と低くなっています。

また、運動をしない理由としては、60 歳代以下が共通して、「時間がない」と回答しています。

Q.普段の生活の中で、1回 30 分以上軽く汗をかく運動を、週2日以上、1年以上行っていますか

（単位：%）

区分	行っている	行っていない	無回答
20 歳代	23.6	76.4	0.0
30 歳代	12.6	85.7	1.7
40 歳代	24.3	71.8	3.9
50 歳代	36.2	61.9	1.9
60 歳代	53.3	43.4	3.3
70 歳以上	63.3	35.6	1.1
全体（H25）	**33.7**	**65.6**	**0.7**
全体（H29）	**35.6**	**62.2**	**2.2**



3-3．たばこ・アルコール

1）小・中学生の喫煙への興味

小６・中２の喫煙への興味は、平成 25 年 0.8%、平成 29 年 1.4%とやや増加していました。喫煙に興味がある小６・中２のうち、平成 25 年 85.7%、平成 29 年 66.7%が家族内に喫煙者がいました。

また、「喫煙が肺がんへの影響があることを知っている」は 91.6%、「心臓病への影響があることを知っている」と回答したものは 72%、その他の影響については５割程度の認知度でした。

Q.たばこを吸うことに興味はありますか　（単位：%）

区分	ある	少しある	ない	無回答
小6・中2（H25）	0.8	5.1	93.4	0.6
小6・中2（H29）	1.4	3.3	94.1	1.1

喫煙への興味と家族の喫煙状況　（単位：%）

	家族で吸う人がいる	家族で吸う人がいない	無回答
喫煙興味がある	66.7	33.3	0.0
喫煙興味が少しある	67.9	32.1	0.0
興味がない	45.6	54.1	0.3
無回答	―	22.2	77.8
総計	46.2	52.8	1.1

Q.たばこを吸うと次のような病気や症状に影響を与えることを知っていますか　（単位：%）

区分	心臓病	脳血管の病気	胃かいよう	肺がん	気管支炎やぜんそく	歯ぐきの病気	胎児への影響
小6	70.0	37.9	20.0	89.3	51.2	37.7	29.8
中2	74.1	50.2	23.6	94.1	51.5	60.6	57.1
全体	**72.0**	**43.9**	**21.8**	**91.6**	**51.3**	**48.8**	**43.1**

2）20 歳以上の喫煙

20 歳以上の喫煙率の平均は、男性 23.1%、女性 7.8%でした。男女別、年齢別でみると、男性では 20 歳代が 47.1%、女性では 20 歳代が 21.1%と、男女とも 20 歳代が一番高い喫煙率でした。

また、平成 29 年の妊娠届出時の喫煙率は 4.8%であり、平成 22 年の 7.4%及び国の 5.0%と比べ低くなっています。妊娠中の喫煙は、妊娠合併症（自然流産、早産等）のリスクを高めるだけでなく、低出生体重児の出生や出生後の乳幼児突然死症候群のリスクとなることから、特に注目して取り組む必要があります。

Q.たばこを吸っていますか　（単位：%）

【男性】区分	吸ったことがない	以前吸っていたが今は吸っていない	吸っている	無回答	【女性】区分	吸ったことがない	以前吸っていたが今は吸っていない	吸っている	無回答
20 歳代	41.2	11.8	47.1	0.0	20 歳代	63.2	15.8	21.1	0.0
30 歳代	36.4	33.3	30.3	0.0	30 歳代	64.9	22.9	10.2	2.0
40 歳代	30.2	39.5	27.9	2.3	40 歳代	68.1	24.6	2.9	4.3
50 歳代	30.4	45.7	21.7	2.2	50 歳代	72.9	16.9	8.5	1.7
60 歳代	19.2	57.7	20.5	2.6	60 歳代	78.8	11.5	7.7	1.9
70 歳以上	26.7	56.7	16.7	0.0	70 歳以上	86.2	6.9	3.4	3.4
全体	**27.7**	**47.9**	**23.1**	**1.3**	**全体**	**71.5**	**18.2**	**7.8**	**2.5**

妊娠中の喫煙

平成 22 年　国　5%　（厚生労働省　乳幼児身体発育調査より）

平成 22 年　町　7.4%　（妊娠届出時アンケートより）

平成 29 年　町　4.8%　（妊娠届出時アンケートより）

3）小・中学生の飲酒への興味

飲酒への興味は前回調査と比べ減少しており、「興味がない」が平成 25 年 53.3%に比べ平成 29 年は 59.9%と増加していました。「興味ある」、「興味が少しある」は、平成 29 年 38.6%であり、平成 25 年 46.1%と比べ減少しています。「興味ある」は、小６で 8.1%、中２で 16.7%と中２の方が興味のある者の割合が増加しています。

Q.お酒を飲むことに興味はありますか　（単位：%）

区分	ある	少しある	ない	無回答
小6	8.1	23.3	67.9	0.7
中2	16.7	29.6	51.5	2.2
小6・中2合計	**12.3**	**26.3**	**59.9**	**1.4**
H29		38.6	59.9	1.5
H25		46.1	53.3	0.6

4）20 歳以上の飲酒

世界保健機構（WHO）のガイドラインでは、アルコール関連問題のリスク上昇の閾値を男性１日 40ｇ（日本酒２合程度）、女性１日 20ｇ（同１合程度）を超える飲酒としています。また、多くの先進諸国もガイドラインで許容飲酒量に男女差を設け、女性は男性の１/２～２/３としています。

飲酒の頻度では、「ほぼ毎日飲む」割合は全体の 20.7%であり、平成 28 年の国 17.3%と比較すると高くなっています。また、性別では男性 41.0%、女性 10.8%となっており、平成 28 年は男性 28.9%、女性 7.4%であった国と比較すると男女とも高く、年齢では、50 歳代、60 歳代、70 歳以上が他の年代に比べ高くなっていました。

飲酒量については、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人（男性２合、女性１合以上）の割合は、男性 22.6%、女性で 34.9%となっており、平成 28 年国データの男性 33.7%、女性 48.9%と、比較すると低くなっています。

また、多量飲酒である１日３合以上についても、男性 7.2%、女性 3.5%で、平成 28 年国データの男性 12.8%、女性 6.2%と比較して低くなっています。

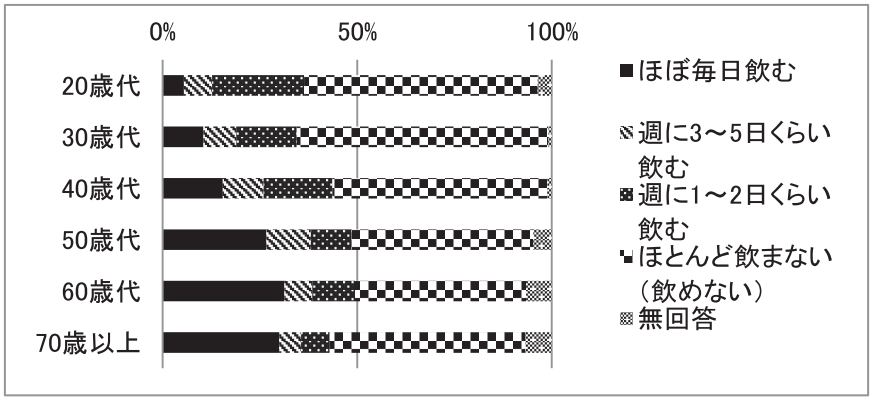
妊娠中の飲酒については、平成 29 年 0.3%であり、平成 22 年国データの 8.7%に比べて低くなっていますが、妊娠中の飲酒は、胎児性アルコール症候群や発育障害を引き起こすことがわかっており、妊娠中の飲酒をしないよう啓発する必要があります。また、授乳中も血液中のアルコールが母乳に移行するため、妊娠から授乳期を通じて飲酒を控える必要があります。

Q.普段、お酒を飲みますか　（単位：%）

区分	ほぼ毎日飲む	週に 3～5 日くらい飲む	週に 1～2 日くらい飲む	ほとんど飲まない	無回答
20 歳代	5.5	7.3	23.6	60.0	3.6
30 歳代	10.5	8.4	15.5	64.7	0.8
40 歳代	15.5	10.5	17.7	55.2	1.1
50 歳代	26.7	11.4	10.5	46.7	4.8
60 歳代	31.3	7.1	11.0	44.0	6.6
70 歳以上	29.9	5.6	7.3	50.3	6.8
全体	**20.7**	**8.3**	**13.4**	**53.9**	**3.7**
男性	**41.0**	**9.4**	**13.0**	**31.9**	**4.6**
女性	**10.8**	**7.8**	**13.6**	**64.5**	**3.3**

国（H28）	毎日	週 3～6 日	週 1～2 日	ほとんど飲まない
全体	**17.3**	**11.7**	**7.6**	**24.7**
男性	**28.9**	**16.3**	**8.4**	**21.6**
女性	**7.4**	**7.8**	**6.9**	**27.3**

※国：国民生活・栄養調査



妊娠中の飲酒

平成 22 年　国　8.7%　町　0.6%

平成 29 年　　町　0.3%

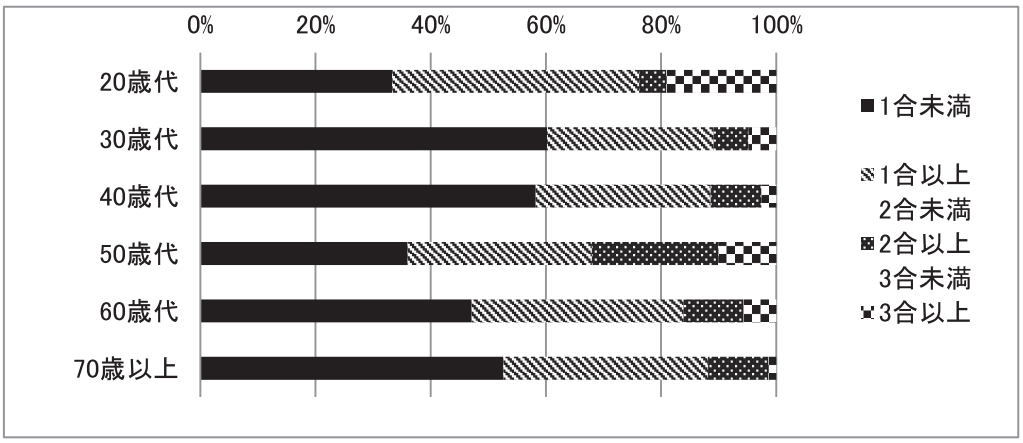
（厚生労働省　乳幼児身体発育調査、妊娠届出時アンケートより）

Q.1 回あたりお酒をどの程度飲んでいますか（ほとんど飲まない以外回答。無回答除く。）

（単位：%）

区分	1 合未満	1 合以上 2 合未満	2 合以上 3 合未満	3 合以上
20 歳代	33.3	42.9	4.8	19.0
30 歳代	60.2	28.9	6.0	4.8
40 歳代	58.2	30.4	8.9	2.5
50 歳代	36.0	32.0	22.0	10.0
60 歳代	47.1	36.8	10.3	5.7
70 歳以上	52.6	35.5	10.5	1.3
全体	**51.0**	**33.3**	**10.4**	**5.3**
男性	**36.4**	**41.0**	**15.4**	**7.2**
女性	**65.1**	**25.9**	**5.5**	**3.5**
全体 （国・H28）	**37.4**	**35.1**	**17.2**	**10.2**
男性 （国・H28）	**29.1**	**37.2**	**20.9**	**12.8**
女性 （国・H28）	**51.2**	**31.7**	**11.0**	**6.2**

資料：（国）国民生活・栄養調査



3-4．睡眠

睡眠不足は、疲労感をもたらし、情緒安定や判断力、事故リスクなど生活の質に大きく影響します。また、睡眠障害はこころの病気の一症状としてあらわれることも多く、再発や再燃リスクも高めます。さらに、睡眠不足や睡眠障害が肥満や高血圧、糖尿病の発症・悪化要因であること、心疾患や脳血管障害を引き起こし、ひいては死亡率の上昇をもたらすことも知られています。

また、乳幼児期については、規則正しい生活リズムの確立が、心身の発育・発達のために重要であり、早寝、早起きを推奨している「食育」や「健やかな育児」の観点からも欠かすことができない要素です。

1）子どもの睡眠時間

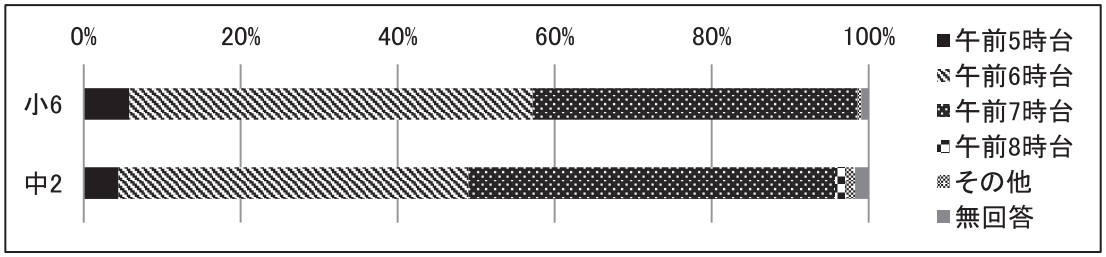
子どもの起床について、1歳から小3までは、午前5時台・午前6時台及び午前7時台を合わせると、平成 25 年 93.6%から平成 29 年 93.1%と減少しています。小6・中2では、午前5時台，午前6時台及び午前7時台を合わせると、平成 25 年 96.5%から平成 29 年 97.2%と増加しています。

就寝については、1歳から小3までで、午後8時台と午後9時台を合わせると、平成 25 年 71.3%から平成 29 年 69.7%と減少しています。小6・中2では、午後 11 時台が平成 25 年 34.7%から平成 29 年 29.3%と改善しています。

Q.普段、あなたが起きる時間と寝る時間は何時ごろですか

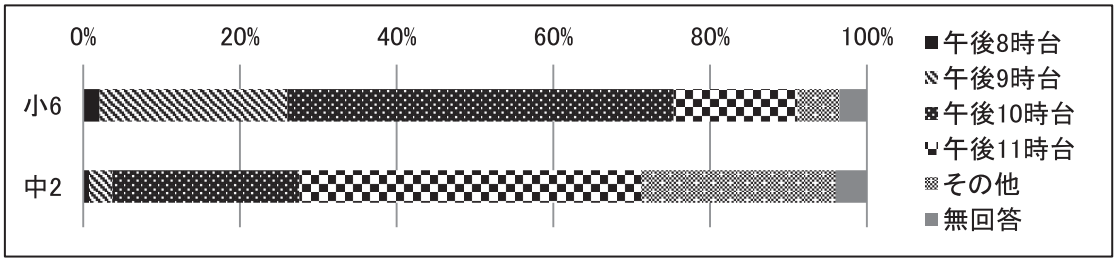
【起床】 （単位：%）

区分	午前5時台	午前6時台	午前7時台	午前8時台	その他	無回答
未就園	2.7	27.0	40.5	24.3	5.4	0.0
保育所・幼稚園	0.7	40.6	52.2	5.8	0.0	0.7
小学校	3.4	68.1	28.4	0.0	0.0	0.0
1歳～小3合計（H29）	**2.1**	**49.8**	**41.2**	**5.8**	**0.7**	**0.3**
1歳～小3合計（H25）	**1.9**	**50.4**	**41.3**	**5.1**	**0.8**	**0.5**
小6	5.8	51.4	41.4	0.0	0.5	0.9
中2	4.4	44.6	46.8	1.2	1.2	1.7
小6・中2合計（H29）	**5.1**	**48.1**	**44.0**	**0.6**	**0.8**	**1.3**
小6・中2合計（H25）	**4.3**	**47.0**	**45.2**	**1.2**	**1.8**	**0.5**



【就寝】 （単位：%）

区分	午後8時台	午後9時台	午後 10 時台	午後 11 時台	その他	無回答
未就園	18.9	45.9	35.1	0.0	0.0	0.0
保育所・幼稚園	15.2	55.8	23.9	2.9	0.0	2.2
小学校	12.1	57.8	28.4	0.9	0.9	0.0
1歳～小3合計（H29）	**14.4**	**55.3**	**27.1**	**1.7**	**0.3**	**1.0**
1歳～小3合計(H25)	**12.9**	**58.4**	**23.6**	**3.2**	**1.3**	**0.5**
小6	2.1	24.0	49.3	15.8	5.3	3.5
中2	0.7	3.0	23.9	43.6	24.9	3.9
小6・中2合計（H29）	**1.4**	**13.8**	**37.0**	**29.3**	**14.8**	**3.7**
小6・中2合計(H25)	**1.0**	**11.1**	**35.6**	**34.7**	**14.5**	**3.1**

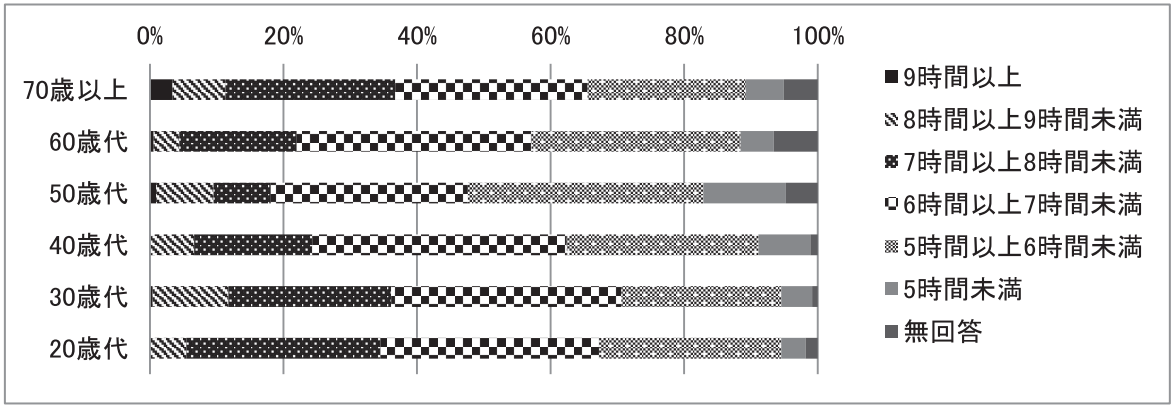


2）20 歳以上の睡眠

全体では「６時間以上７時間未満」が 33.6%と一番多くなっていますが、50 歳代は「５時間以上６時間未満」が一番多く、睡眠時間が他の年代より短くなっています。また、普段の睡眠で休養がとれているかどうかでは、全体では「十分とれている」「まあとれている」が 67.5%で、平成 25 年の 66%と比べ増加し、「あまりとれていない」という人の割合は 24.4%であり、平成 25 年の 26.3%と比べ減少しています。

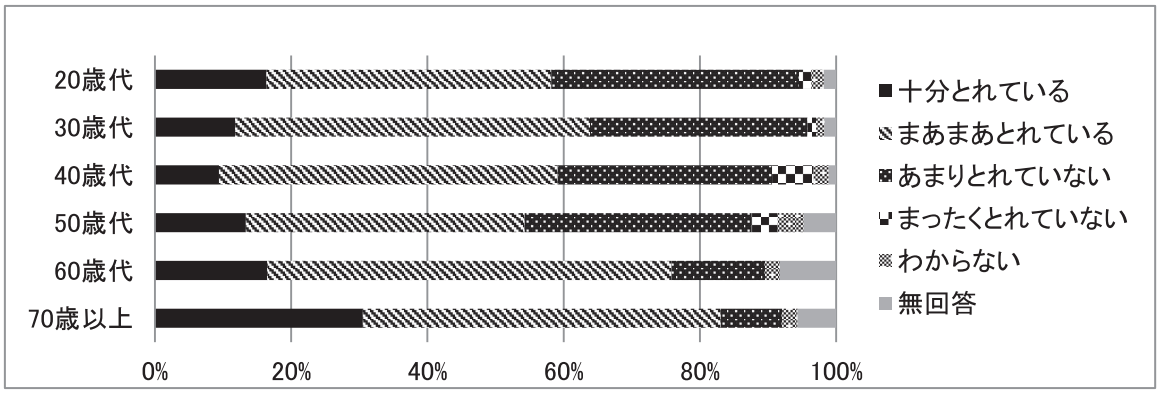
Q.普段の睡眠時間はどのくらいですか （単位：%）

区分	9 時間以上	8 時間以上 9 時間未満	7 時間以上 8 時間未満	6 時間以上 7 時間未満	5 時間以上 6 時間未満	5 時間未満	無回答
20 歳代	0.0	5.5	29.1	32.7	27.3	3.6	1.8
30 歳代	0.4	11.3	24.4	34.5	23.9	4.6	0.8
40 歳代	0.0	6.6	17.7	38.1	28.7	7.7	1.1
50 歳代	1.0	8.6	8.6	29.5	35.2	12.4	4.8
60 歳代	0.5	3.8	17.6	35.2	31.3	4.9	6.6
70 歳以上	3.4	7.9	25.4	28.8	23.7	5.6	5.1
全体（H29）	**1.0**	**7.7**	**20.4**	**33.6**	**27.7**	**6.3**	**3.3**
全体(H25)	**1.4**	**7.6**	**25.0**	**32.8**	**23.4**	**7.5**	**2.5**



Q.普段の睡眠で、休養が十分とれていますか　（単位：%）

区分	十分とれている	まあとれている	あまりとれていない	まったくとれていない	わからない	無回答
20 歳代	16.4	41.8	36.4	1.8	1.8	1.8
30 歳代	11.8	52.1	31.9	1.3	1.3	1.7
40 歳代	9.4	49.7	31.5	6.1	2.2	1.1
50 歳代	13.3	41.0	33.3	3.8	3.8	4.8
60 歳代	16.5	59.3	13.7	0.0	2.2	8.2
70 歳以上	30.5	52.5	9.0	0.0	2.3	5.6
無回答	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
全体（H29）	**16.2**	**51.3**	**24.4**	**2.0**	**2.1**	**3.9**
全体（H25）	**13.6**	**52.4**	**26.3**	**2.0**	**2.6**	**3.2**



3-5．歯科

1）幼児のむし歯有病状況

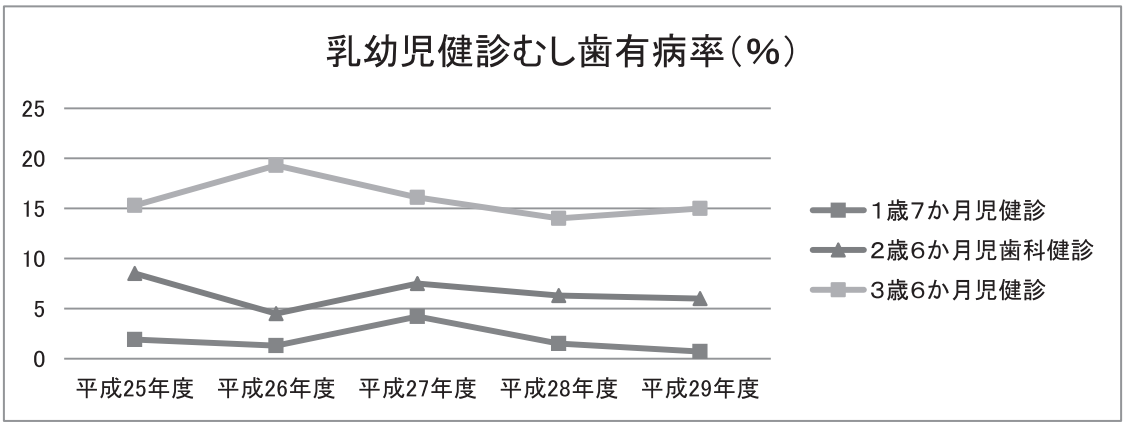
乳幼児期は生涯にわたる歯科保健行動の基盤が形成される時期であり、乳歯咬合の完成期である３歳児のむし歯有病状況の改善は、乳幼児の健全な育成のために不可欠です。また、食育の観点からも、むし歯がなくしっかりかめることは重要です。

熊取町の平成 28 年度３歳６か月児健診のむし歯有病率は 14.0%であり、全国 15.8%と比べると低くなっています。

調査結果より、歯みがきを１日１回以上している割合は全体で 99.3%となっています。保育所や幼稚園に通っている幼児では、「３回以上」歯みがきをしている割合が 38.4%となっているのに対し、未就園の乳幼児は「１回」の割合が 51.4%となっており、所属により歯みがき習慣に大きな差異がみられます。

幼児のむし歯有病状況　（単位：%）

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
1歳7か月児健診	1.9	1.3	4.2	1.5	0.7
2歳6か月児歯科健診	8.5	4.5	7.5	6.3	6.0
3歳6か月児健診	15.3	19.3	16.1	14.0	15.0



1歳7か月児・3 歳 6 か月児健診のむし歯有病状況

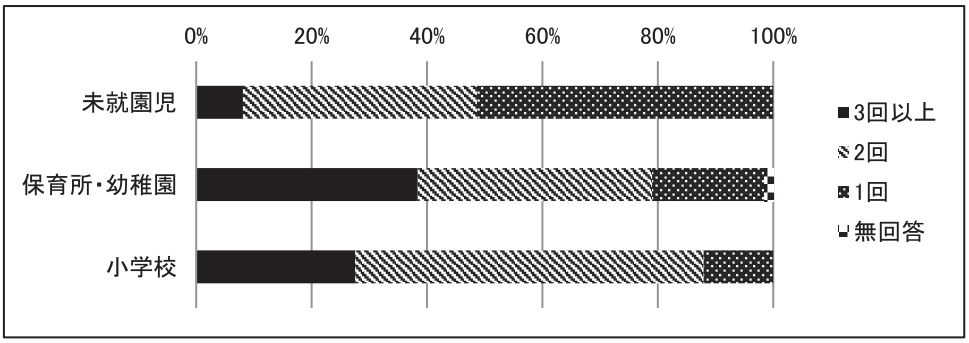
（単位：%）

区分	1歳7か月児健診	3歳6か月児健診
	平成 28 年度	
熊取町	1.5	14.0
大阪府	4.0	17.9
国	1.5	15.8

Q.お子さんは、歯みがきを１日に何回しますか

（単位：%）

区分	3回以上	2回	1回	しない	無回答
未就園	8.1	40.5	51.4	0.0	0.0
保育所・幼稚園	38.4	40.6	19.6	0.0	1.4
小学校	27.6	60.3	12.1	0.0	0.0
1歳～小3合計（H 29）	30.2	48.5	20.6	0.0	0.7
1歳～小3合計（H 25）	34.3	39.4	25.2	0.5	0.5



２）学齢期のむし歯有病状況

学齢期のむし歯有病状況の評価では、12 歳児１人平均う歯本数を用います。これは国際間比較の尺度としても用いられており、学齢期でのむし歯の地域格差を見るうえで最も適した指標とされています。

熊取町の 12 歳児（中学１年生）の１人平均う歯本数は 0.83 本で、国の 0.82 本よりはやや高くなっていますが、府の 1.0 本より低くなっています。また、アンケート結果からは、１日のうち１回以上歯みがきしている人は 98.2%でした。

12 歳児学校歯科健診での１人平均むし歯本数　（単位：本）

区分	平成 29 年度
熊取町	0.83
大阪府	1.0
国	0.82

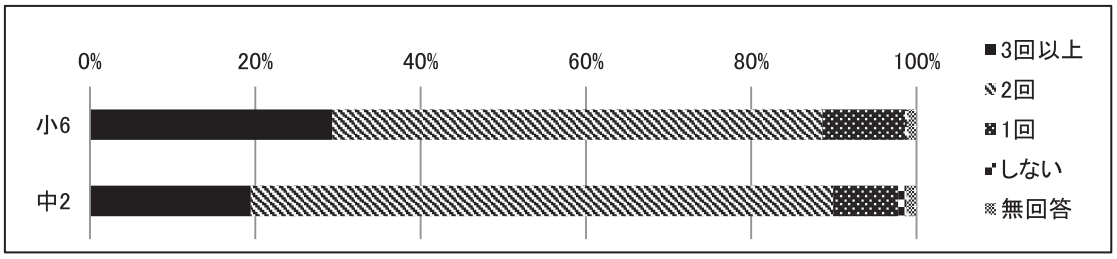
資料：文部科学省　学校保健統計調査

むし歯のある者の割合　（単位：%）

区分	平成 29 年度
熊取町	33.3
大阪府	38.5
国	34.9

Q.歯みがきを1日に何回しますか　（単位：%）

区分	3回以上	2回	1回	しない	無回答
小6	29.3	59.3	10.0	0.2	1.2
中2	19.5	70.4	7.9	1.0	1.2
小6・中2合計（H 29）	**24.5**	**64.7**	**9.0**	**0.6**	**1.2**
小6・中2合計（H 25）	**29.9**	**58.7**	**10.3**	**0.4**	**0.7**



3）成人期の歯・口腔の健康

従来から、全ての国民が生涯にわたって自分の歯を 20 本以上残すことをスローガンとした「8020（ハチマルニイマル）運動」が展開されているところですが、超高齢社会の到来を踏まえ、さらなる取り組みが必要です。生涯を通じて歯科疾患を予防し、歯の喪失を抑制することは、高齢期での口腔機能の維持につながるものであり、健康寿命延伸に大きな意義を有するものと考えられます。

成人期の歯の喪失の主要な原因疾患は、歯周病です。近年のいくつかの疫学研究において、歯周病と糖尿病や循環器疾患等との密接な関連性が報告され、また、高齢期の体力低下や、口腔の機能、栄養不足にも、歯の健康が関連していることから、成人期から高齢期を通じて、歯周病予防の推進は不可欠と考えられます。

アンケート調査結果より、歯磨き回数は全体で「２回」という人が 54.6%と最も多く、「しない」という人はほとんどいませんが、20 歳代は 3.6%が「しない」と回答しています。

また、定期健診等の受診状況では、定期的に歯科健診等を受けている人は、全体 44.8%でした。

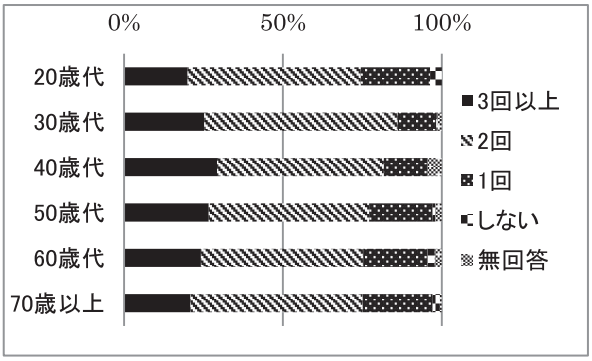
歯間部清掃用具（糸ようじ、フロス、歯間ブラシなど）の使用については、30 歳代以上の年代でそれぞれ 40%以上の人が使用をしていました。

歯の本数は、50 歳以上になると自分の歯の本数が減少していく傾向にあり、平成 28 年の歯科疾患実態調査によると、国では 70 歳以上で 20 本以上の歯を有する者の割合は、52.3%となっています。アンケート調査結果では 70 歳以上で 20 本以上ある人の割合は 57.1%となっており、国より高くなっています。

Q.歯みがきを 1 日に何回しますか

（単位：%）

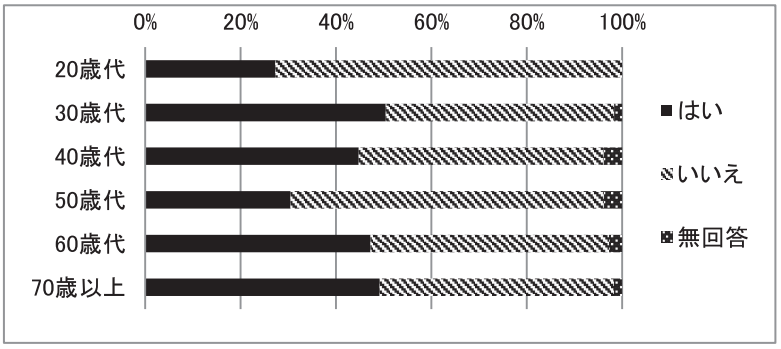
区分	3 回以上	2 回	1 回	しない	無回答
20 歳代	20.0	54.5	21.8	3.6	0.0
30 歳代	25.2	60.9	12.2	0.4	1.3
40 歳代	29.3	52.5	13.8	0.0	4.4
50 歳代	26.7	50.5	20.0	1.0	1.9
60 歳代	24.2	51.1	20.3	2.2	2.2
70 歳以上	20.9	54.2	22.0	2.3	0.6
全体（H29）	**24.8**	**54.6**	**17.4**	**1.3**	**1.9**
全体（H25）	**27.3**	**54.9**	**16.1**	**1.0**	**0.7**



Q.定期的（年に１回程度）に、歯科健診や歯石除去や歯面清掃を受けていますか

（単位：%）

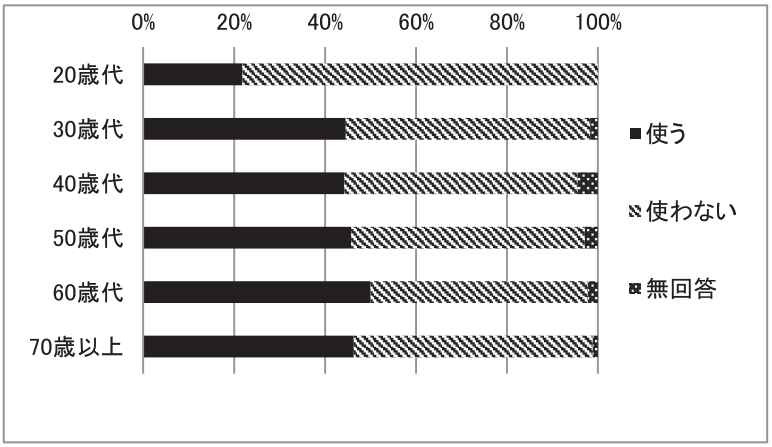
区分	はい	いいえ	無回答
20 歳代	27.3	72.7	0.0
30 歳代	50.4	47.9	1.7
40 歳代	44.8	51.4	3.9
50 歳代	30.5	65.7	3.8
60 歳代	47.3	50.0	2.7
70 歳以上	49.2	49.2	1.7
全体（H29）	**44.8**	**52.7**	**2.5**
全体（H25）	**38.5**	**60.4**	**1.1**



Q.歯みがきをするときに歯間部清掃用具（糸ようじ、フロス、歯間ブラシなど）を使いますか

（単位：%）

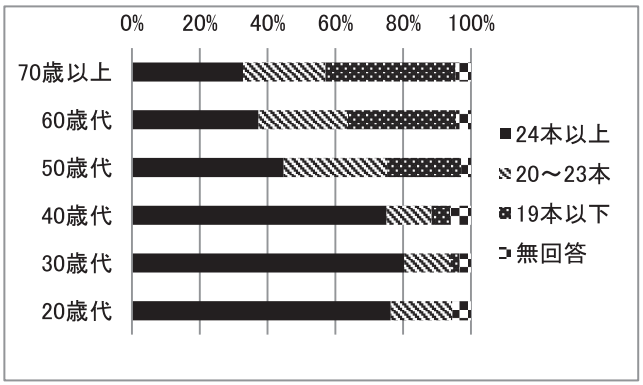
区分	使う	使わない	無回答
20 歳代	21.8	78.2	0.0
30 歳代	44.5	53.8	1.7
40 歳代	44.2	51.4	4.4
50 歳代	45.7	51.4	2.9
60 歳代	50.0	47.8	2.2
70 歳以上	46.3	52.5	1.1
全体（H29）	**44.7**	**53.0**	**2.2**
全体（H25）	**40.9**	**57.6**	**1.6**



Q.現在、自分の歯は何本ありますか

（単位：%）

区分	24 本以上	20～23 本	19 本以下	無回答
20 歳代	76.4	18.2	0.0	5.5
30 歳代	80.3	13.9	2.5	3.4
40 歳代	75.1	13.3	5.5	6.1
50 歳代	44.8	30.5	21.9	2.9
60 歳代	37.4	26.4	31.9	4.4
70 歳以上	32.8	24.3	38.4	4.5
全体（H29）	**57.7**	**20.3**	**17.6**	**4.4**
全体（H25）	**58.9**	**19.9**	**17.7**	**3.5**



3-6．健康管理

１）主観的健康観

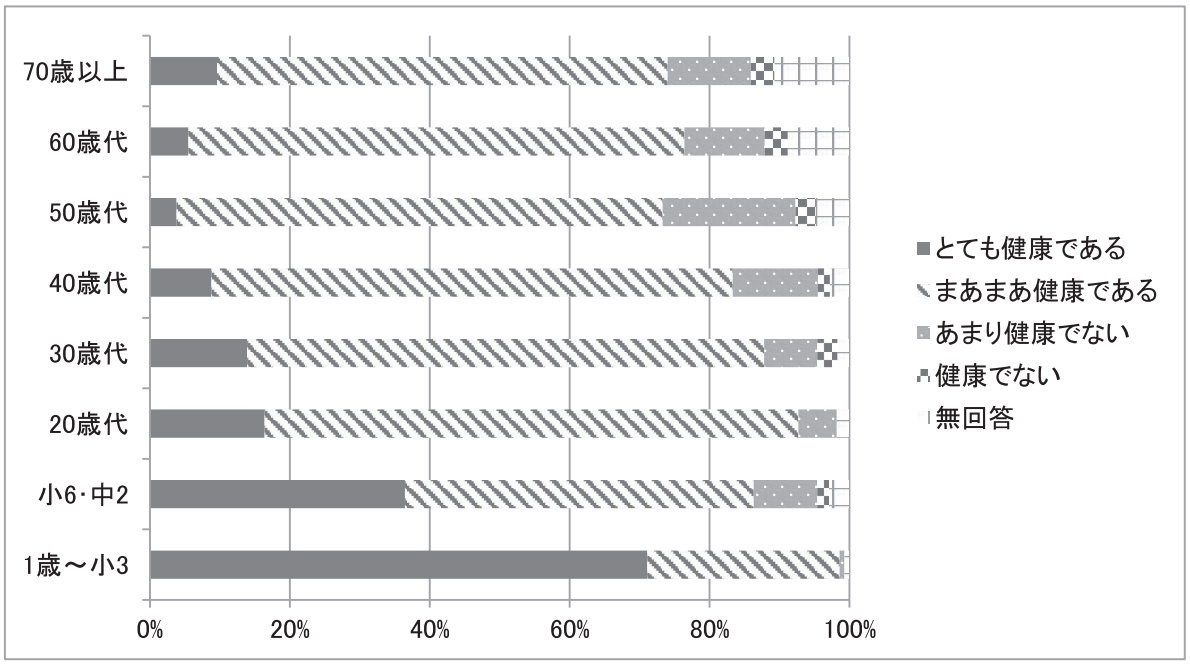
前回調査との比較では、小６・中２で「とても・まあまあ健康である」と答えた人の割合は 86.4%となっており、平成 25 年の 88.1%からやや減少しています。

20 歳以上全体では、「とても・まあまあ健康である」と答えた人の割合は 80.8%となっており、平成 25 年の 78.6%と比較すると、やや高くなっています。

Q.普段、自分の健康について、どのように感じていますか

（単位：%）

区分	とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	健康でない	無回答
1歳～小3合計（H29）	**71.1**	**27.5**	**0.7**	**0.0**	**1.5**
1歳～小3合計（H25）	**66.5**	**32.7**	**0.5**	**0.0**	**0.5**
小6・中2（H29）	**36.5**	**49.9**	**9.1**	**1.7**	**2.9**
小6・中2（H25）	**36.8**	**51.3**	**10.0**	**1.0**	**0.8**
20 歳代	16.4	76.4	5.5	0.0	1.8
30 歳代	13.9	73.9	7.6	2.9	1.7
40 歳代	8.8	74.6	12.2	1.7	2.8
50 歳代	3.8	69.5	19.0	2.9	4.8
60 歳代	5.5	70.9	11.5	3.3	8.8
70 歳以上	9.6	64.4	11.9	3.4	10.7
20 歳以上（H29）	**9.5**	**71.3**	**11.2**	**2.7**	**5.3**
20 歳以上（H25）	**8.0**	**70.6**	**12.8**	**4.1**	**4.5**



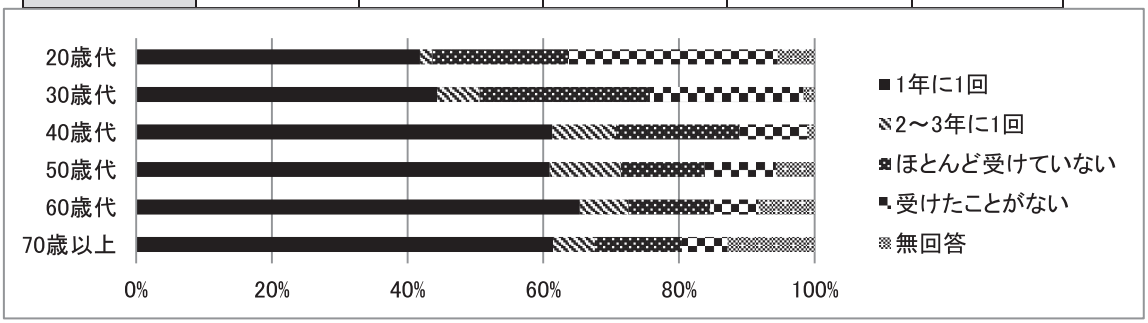
2）健康診断の受診状況

①健康診断

健診を受けることは、生活習慣病の早期発見や重症化予防、自己健康管理力の向上の面からも重要です。アンケートの回答では「１年に１回健康診査を受けている人」が、全体で平成 25 年 52.2%から平成 29 年 56.6%と増加しています。40 歳代以上では 60%を越えていますが、20 歳代・30 歳代では 40%程度と低くなっています。

Q.定期的に健康診査を受けていますか　（単位：%）

区分	1 年に 1 回	2～3 年に 1 回	ほとんど受けていない	受けたことがない	無回答
20 歳代	41.8	1.8	20.0	30.9	5.5
30 歳代	44.4	6.3	25.1	22.6	1.7
40 歳代	61.3	9.4	18.2	9.9	1.1
50 歳代	61.0	10.5	12.4	10.5	5.7
60 歳代	65.4	7.1	12.1	7.1	8.2
70 歳以上	61.5	6.1	12.8	6.7	12.8
全体(H29)	**56.6**	**7.2**	**17.2**	**13.3**	**5.6**
全体(H25)	**52.2**	**9.1**	**18.4**	**14.6**	**5.7**



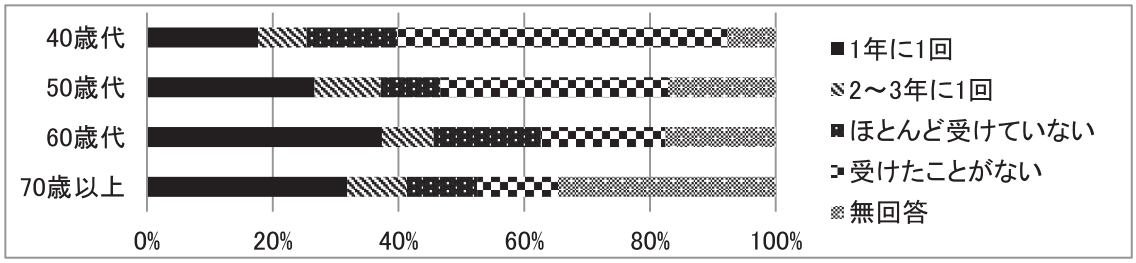
②がん検診

・結核・肺がん検診

結核肺がん検診の受診状況は、40 歳以上全体でみると、「１年に１回」受けている人は 21.6%で、60 歳代が 37.4%と一番高くなっていました。

（単位：%）

区分	1 年に 1 回	2～3 年に 1 回	ほとんど受けていない	受けたことがない	無回答
40 歳代	17.7	7.7	14.4	52.5	7.7
50 歳代	26.7	10.5	9.5	36.2	17.1
60 歳代	37.4	8.2	17.0	19.8	17.6
70 歳以上	31.8	9.5	11.2	12.8	34.6
無回答	16.7	16.7	0.0	16.7	50.0
全体(H29)	**21.6**	**6.4**	**11.1**	**45.4**	**15.6**
男性(H29)	**26.6**	**8.4**	**11.7**	**28.1**	**25.2**
女性(H29)	**22.2**	**11.2**	**16.7**	**30.4**	**19.4**
全体(H25)	**23.9**	**10.2**	**14.6**	**29.4**	**21.9**

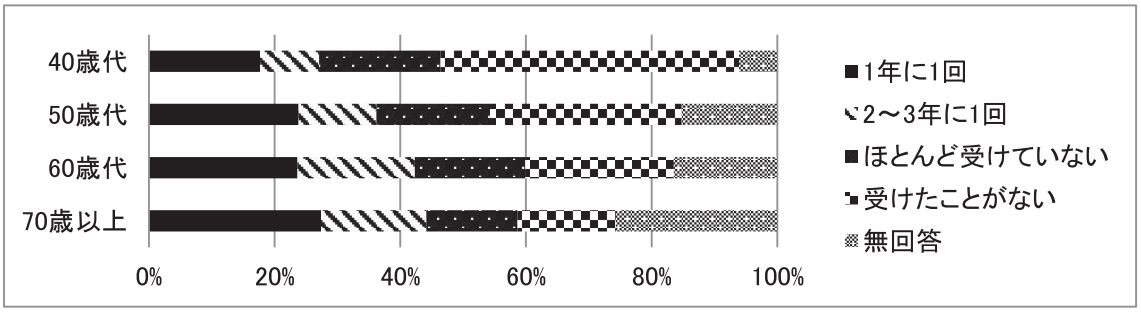


・胃がん検診

胃がん検診は、「１年に１回」受けている人は全体で 17.3%、年代別では 50 歳代が 25.7%と一番高く、次いで 60 歳代が 25.3%となっていました。

（単位：%）

区分	1 年に 1 回	2～3 年に 1 回	ほとんど受けていない	受けたことがない	無回答
40 歳代	18.2	7.7	20.4	47.5	6.1
50 歳代	25.7	13.3	16.2	32.4	12.4
60 歳代	25.3	15.9	19.8	23.6	15.4
70 歳以上	25.1	16.2	18.4	12.3	27.9
全体（H29）	**17.3**	**9.7**	**15.1**	**44.8**	**13.1**
男性（H29）	**23.7**	**9.1**	**15.3**	**28.5**	**23.4**
女性（H29）	**18.9**	**14.8**	**19.6**	**31.3**	**15.3**
全体（H25）	**20.8**	**12.6**	**17.8**	**30.1**	**18.8**

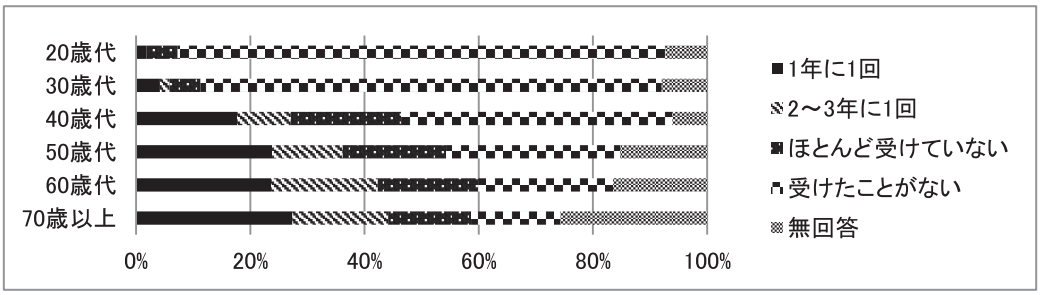


・大腸がん検診

大腸がん検診は、「１年に１回」受けている人は全体で 17.0%。年代別では、70 歳以上が 27.4%と一番多く受診していました。

（単位：%）

区分	1 年に 1 回	2～3 年に 1 回	ほとんど受けていない	受けたことがない	無回答
40 歳代	17.7	9.4	19.3	47.5	6.1
50 歳代	23.8	12.4	18.1	30.5	15.2
60 歳代	23.6	18.7	17.6	23.6	16.5
70 歳以上	27.4	16.8	14.5	15.6	25.7
全体（H29）	**17.0**	**10.4**	**13.6**	**45.6**	**13.4**
男性（H29）	**17.9**	**8.8**	**15.0**	**31.8**	**26.6**
女性（H29）	**17.2**	**12.9**	**17.2**	**35.6**	**17.0**
全体（H25）	**17.5**	**11.2**	**16.2**	**34.1**	**21.1**

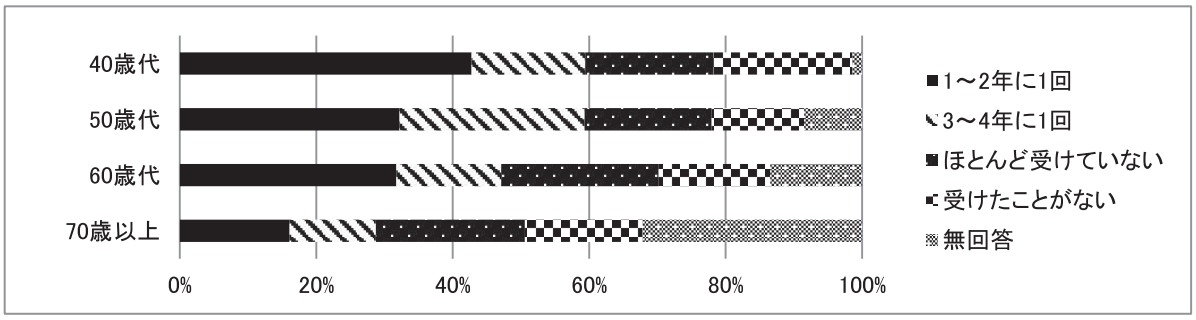


・乳がん検診（女性のみ）

乳がん検診（女性のみ）は、「１～２年に１回」受けている人は全体で 26.0%でした。年代別では、40 歳代が 42.8%、50 歳代が 32.2%、60 歳代が約 31.7%と続いています。

（単位：%）

区分	1～2 年に 1 回	3～4 年に 1 回	ほとんど受けていない	受けたことがない	無回答
40 歳代	42.8	16.7	18.8	20.3	1.4
50 歳代	32.2	27.1	18.6	13.6	8.5
60 歳代	31.7	15.4	23.1	16.3	13.5
70 歳以上	16.1	12.6	21.8	17.2	32.2
全体（H29）	**26.0**	**14.4**	**19.8**	**30.3**	**9.5**
全体（H25）	**23.7**	**13.7**	**19.5**	**32.7**	**10.4**

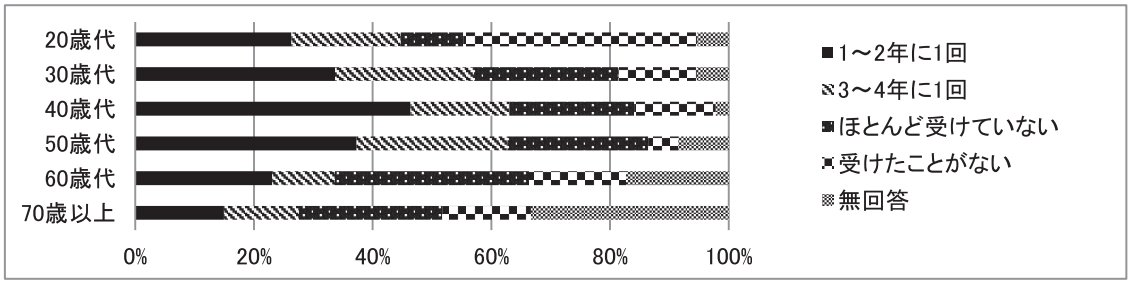


・子宮がん検診（女性のみ）

子宮がん検診（女性のみ）では、「１～２年に１回」受けている人は全体で 32.0%でした。年代別では、40 歳代が 46.4%、50 歳代が 37.3%と続いています。

（単位：%）

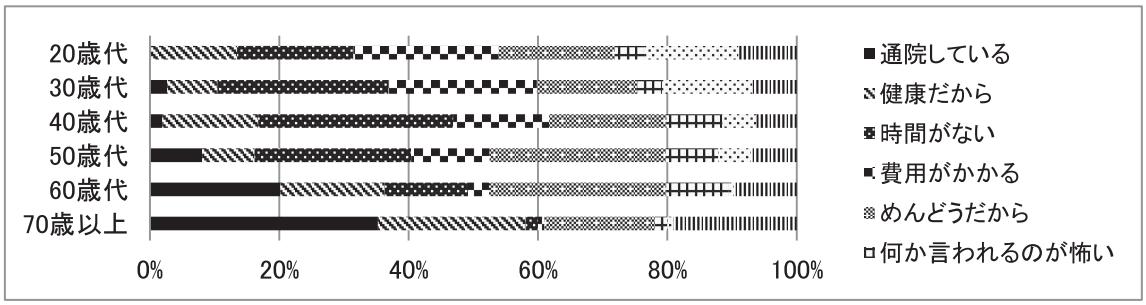
区分	1～2 年に 1 回	3～4 年に 1 回	ほとんど受けていない	受けたことがない	無回答
20 歳代	26.3	18.4	10.5	39.5	5.3
30 歳代	33.7	23.4	24.4	13.2	5.4
40 歳代	46.4	16.7	21.0	13.8	2.2
50 歳代	37.3	25.4	23.7	5.1	8.5
60 歳代	23.1	10.6	32.7	16.3	17.3
70 歳以上	14.9	12.6	24.1	14.9	33.3
全体（H29）	**32.0**	**18.2**	**24.1**	**14.9**	**10.8**
全体（H25）	**33.1**	**19.7**	**22.0**	**15.9**	**9.3**



また、健康診査を受診しない理由をみると、「忙しく時間がない」21.8%、「めんどうだから」19.2%、「費用がかかるから」15.1%の順でした。各がんの罹患と併せて考えると、年代別の未受診理由を考慮した啓発や、受診環境の整備が必要です。

Q.健康診査を受けていない理由はなぜですか（複数回答）　（単位：%）

区分	通院している	健康だから	忙しく時間がない	費用がかかるから	めんどうだから	何か言われるのが怖い	受け方がわからない	その他
20 歳代	0.0	13.5	18.0	22.5	18.0	4.5	14.6	9.0
30 歳代	2.7	7.7	26.5	22.9	15.5	3.9	14.0	6.8
40 歳代	1.9	14.8	30.1	14.8	18.2	8.6	5.3	6.2
50 歳代	8.1	8.1	24.2	12.1	27.3	8.1	5.1	7.1
60 歳代	20.2	16.1	12.9	3.2	27.4	9.7	0.8	9.7
70 歳以上	35.2	22.9	1.9	1.0	17.1	1.9	1.0	19.0
全体（H29）	**8.6**	**12.6**	**21.8**	**15.1**	**19.2**	**5.9**	**8.1**	**8.6**
全体（H25）	**10.8**	**14.6**	**17.6**	**18.2**	**17.7**	**6.7**	**11.8**	**6.1**



3-7. 日常生活

健康づくりを考えるうえで、日頃の生活を楽しいと感じることや生きがいの有無は、個人のこころの健康面に大きな影響があります。

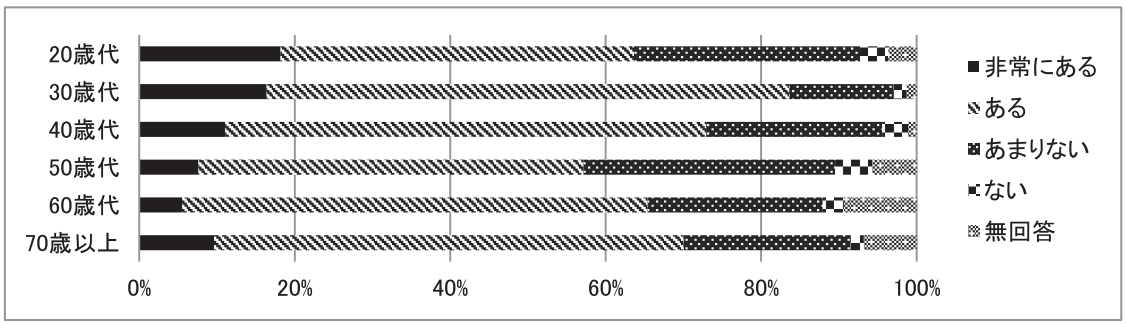
個人の生きがいを見出す動機づけや、地域への愛着形成及び近所づきあいの活性化は、健康分野のみでは実現が困難です。行政内部の関係課や、地域活動に携わるあらゆる関係機関と連携し、さまざまな分野から地域づくりに取り組む必要があります。

1）生きがいや充実感

「非常にある・ある」と答えた人が 71.3%となっており、平成 25 年の 71.2%と比較すると 0.1 ポイント増加しています。一方、年代別にみると、20 歳代の「非常にある・ある」が 63.7%となっており、平成 25 年の 76.4%と比較すると 12.7 ポイント減少しています。30 歳代・40 歳代・70 歳代以上で、平成 25 年と比較して増加しており、50 歳代・60 歳代で減少しています。

Q.普段、生活の中で生きがいや充実感を感じることはありますか　（単位：%）

区分	非常にある	ある	あまりない	ない	無回答
20 歳代	18.2	45.5	29.1	3.6	3.6
30 歳代	16.4	67.2	13.4	1.7	1.3
40 歳代	11.0	61.9	22.7	3.3	1.1
50 歳代	7.6	49.5	32.4	4.8	5.7
60 歳代	5.5	59.9	22.5	2.7	9.3
70 歳以上	9.6	60.5	21.5	1.7	6.8
全体（H29）	**11.1**	**60.2**	**21.5**	**2.7**	**4.5**
全体（H25）	**9.6**	**61.6**	**21.0**	**3.6**	**4.2**



2）近所づきあいの頻度

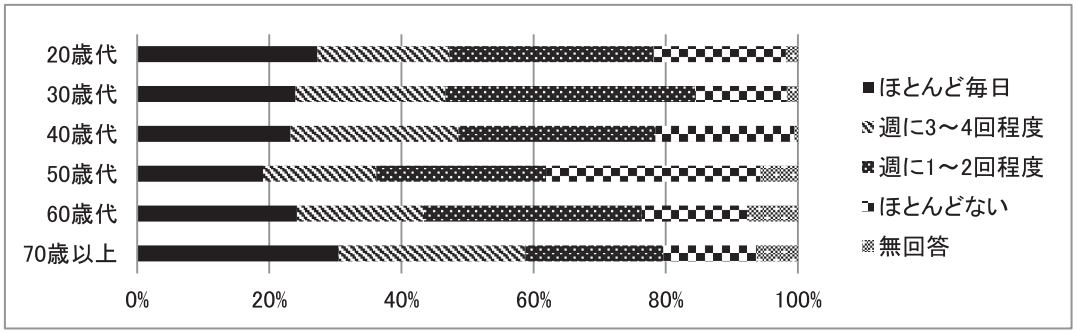
全体で、「週に 1 回以上は話す機会がある」と答えた人は 78.0%で、平成 25 年 79.5%と比較すると 1.5 ポイント減少していました。

「ほとんどない」と答えたのは、50 歳代が 32.4%ともっとも高く、男女別でみると、男性は 27.0%であり、女性の 13.8%より高くなっています。

Q.普段、友人やご近所の人とお話する機会がありますか

（単位：%）

区分	ほとんど毎日	週に 3～4 回程度	週に 1～2 回程度	ほとんどない	無回答
20 歳代	27.3	20.0	30.9	20.0	1.8
30 歳代	23.9	22.7	37.8	13.9	1.7
40 歳代	23.2	25.4	29.8	21.0	0.6
50 歳代	19.0	17.1	25.7	32.4	5.7
60 歳代	24.2	19.2	33.0	15.9	7.7
70 歳以上	30.5	28.2	20.9	14.1	6.2
全体（H29）	**24.8**	**22.8**	**30.4**	**18.1**	**3.9**
男性（H29）	**19.9**	**17.6**	**30.0**	**27.0**	**5.5**
女性（H29）	**27.1**	**25.4**	**30.6**	**13.8**	**3.2**
全体（H25）	**29.7**	**20.8**	**29.0**	**17.5**	**3.0**



3）近所づきあいの程度や意向

「何か困った時に助け合う」から「立ち話をする程度」までの人は、全体で 53.9%となっています。

「ほとんど近所づきあいはない」と回答した人は、50 歳代が 9.5%ともっとも多く、男女で比較をすると、「何か困った時に助け合う」は、男性 7.8%に対し、女性は 20.1%と大きな差があります。

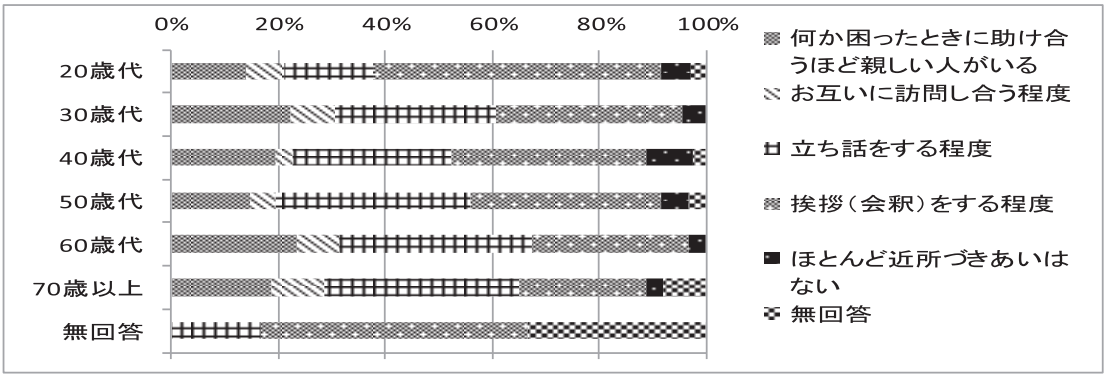
平成 25 年と比較すると、「助け合う関係」が 19.5%から 16.1%に減少し、「ほとんど近所づきあいはない」が 4.7%から 5.9%へ増加するなど、近所づきあいの希薄化が進んでいることが伺えます。

近所づきあいの意向も同様の傾向で、全体では「ほどほどがよい」が 31.1%と一番多く、次に「積極的にした方が良い」が 29.9%でした。20 歳代は 18.2%となっていました。

Q.あなたとご近所の人との関係は次のどれにあたりますか

（単位：%）

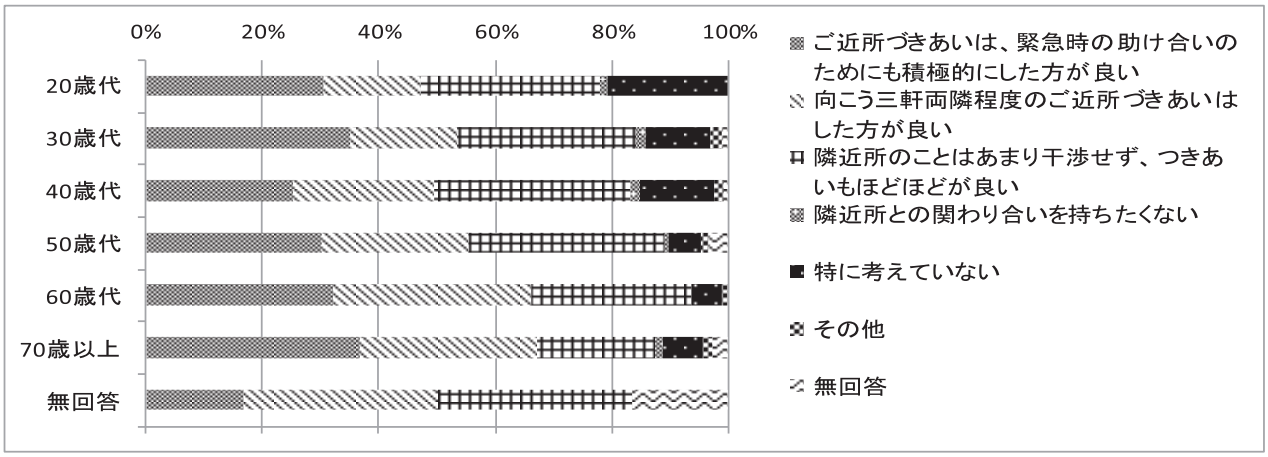
区分	何か困ったときに助け合うほど親しい人がいる	お互いに訪問し合う程度	立ち話をする程度	挨拶（会釈）をする程度	ほとんど近所づきあいはない	無回答
20 歳代	5.5	3.6	9.1	69.1	9.1	3.6
30 歳代	14.7	6.3	32.4	40.3	5.5	0.8
40 歳代	14.9	6.1	33.1	38.1	5.5	2.2
50 歳代	15.2	4.8	21.9	41.9	9.5	6.7
60 歳代	18.1	7.7	37.4	24.2	4.9	7.7
70 歳以上	20.9	7.9	34.5	24.9	4.5	7.3
全体（H29）	**16.1**	**6.5**	**31.3**	**35.7**	**5.9**	**4.5**
男性（H29）	**7.8**	**4.9**	**26.7**	**45.9**	**9.4**	**5.2**
女性（H29）	**20.1**	**7.3**	**33.6**	**30.7**	**4.1**	**4.1**
全体（H25）	**19.5**	**7.0**	**31.8**	**33.8**	**4.7**	**3.1**



Q.ご近所づきあいについてどのように考えておられますか

（単位：%）

区分	ご近所づきあいは、緊急時の助け合いのためにも積極的にした方が良い	向こう三軒両隣程度のご近所づきあいはした方が良い	隣近所のことはあまり干渉せず、つきあいもほどほどが良い	隣近所との関わり合いを持ちたくない	特に考えていない	その他	無回答
20 歳代	18.2	10.9	30.9	3.6	36.4	0.0	0.0
30 歳代	32.4	15.5	38.7	1.7	9.2	1.3	1.3
40 歳代	29.8	21.0	35.9	3.3	7.2	1.7	1.1
50 歳代	24.8	18.1	35.2	6.7	11.4	0.0	3.8
60 歳代	29.1	35.2	24.2	2.2	6.0	0.5	2.7
70 歳以上	33.9	28.2	20.9	2.3	7.9	1.7	5.1
全体（H29）	**29.9**	**22.8**	**31.1**	**2.9**	**9.8**	**1.1**	**2.4**
全体（H25）	**32.1**	**24.6**	**29.2**	**1.2**	**9.7**	**1.5**	**2.2**



4）地域のイベントやボランティア活動への参加

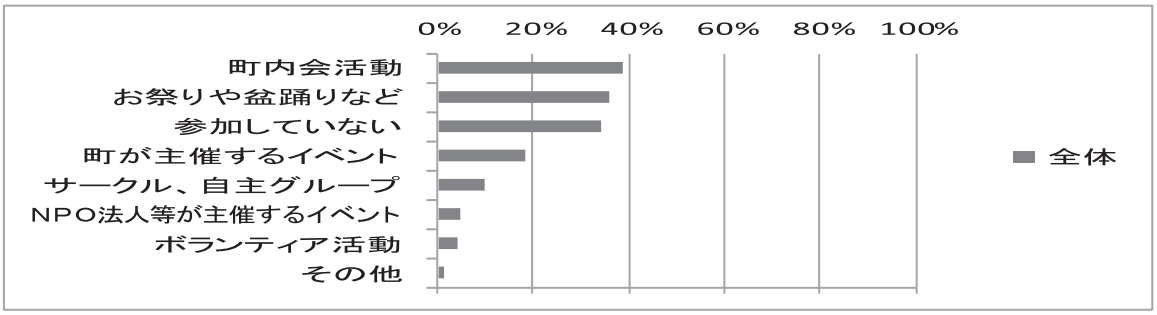
町や地域の催し・活動等への参加では、「祭り・盆踊り」への参加が全体で 36.8%、「自治会、町内会活動」が 35.7%と多くなっており、年齢別では、30 歳代がそれぞれ 55.9%、38.7%と他の年代に比べ高くなっていました。一方、「参加していない」が全体で 37.1%と一番多く、平成 25 年と比較して増加していました。

また、地域活動やボランティアへの参加状況は、「よく参加している」「たまに参加している」と答えた人が 28.5%で、平成 25 年の 29.1%と比べ低下していました。

Q.町や地域の催し・活動等に参加していますか（複数選択）

（単位：%）

区分	お祭りや盆踊りなど	自治会町内会活動	サークル、自主グループ	町が主催するイベント	NPO 法人等が主催するイベント	ボランティア活動	参加していない	その他
20 歳代	30.9	16.4	0.0	5.5	1.8	0.0	60.0	1.8
30 歳代	55.9	38.7	2.9	18.5	5.9	1.3	27.7	1.7
40 歳代	48.6	43.1	5.5	24.9	7.7	2.8	27.6	0.6
50 歳代	28.6	31.4	5.7	12.4	1.0	5.7	45.7	1.9
60 歳代	20.9	37.9	18.7	14.3	2.7	8.8	42.9	1.1
70 歳以上	22.0	30.5	26.0	17.5	4.0	11.9	41.2	1.1
全体(H29)	**36.8**	**35.7**	**11.0**	**17.3**	**4.5**	**5.4**	**37.1**	**1.3**
全体(H25)	**35.9**	**38.9**	**9.8**	**18.5**	**4.7**	**4.2**	**34.1**	**1.3**



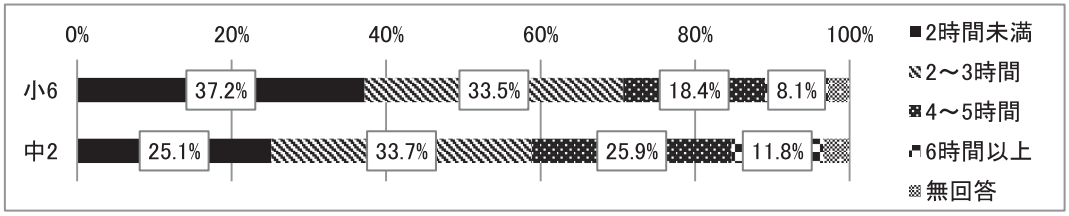
Q.地域活動やボランティア活動に参加していますか

（単位：%）

年齢	よく参加している	たまに参加している	ほとんど参加していない	無回答
20 歳代	1.8	1.8	96.4	0.0
30 歳代	4.2	18.5	76.9	0.4
40 歳代	6.6	24.3	68.5	0.6
50 歳代	7.6	21.0	71.4	0.0
60 歳代	6.6	26.4	67.0	0.0
70 歳以上	11.3	25.4	57.1	6.2
全体（H29）	**6.7**	**21.8**	**70.1**	**1.4**
全体（H25）	**5.4**	**23.7**	**68.6**	**2.3**

6）小・中学生の日常生活

テレビ・パソコン・ゲーム機・携帯など、一日の中で「４～５時間」、「６時間以上」と答えた人を合わせて全体で 31.9%となっていました。使用時間が長くなるほど就寝時間が遅くなる傾向が見られるため、睡眠への影響が懸念されます。



（単位：%）

テレビ・ゲーム等の視聴時間	午後8時台	午後9時台	午後 10 時台	午後 11 時台	その他	無回答
2時間未満	2.7	22.1	41.6	24.8	6.1	2.7
2～3時間	1.4	13.9	38.1	29.9	13.2	3.6
4～5時間	0.0	6.0	37.0	36.4	17.9	2.7
6時間	1.2	4.8	21.7	30.1	37.3	4.8
無回答	0.0	11.5	26.9	15.4	26.9	19.2

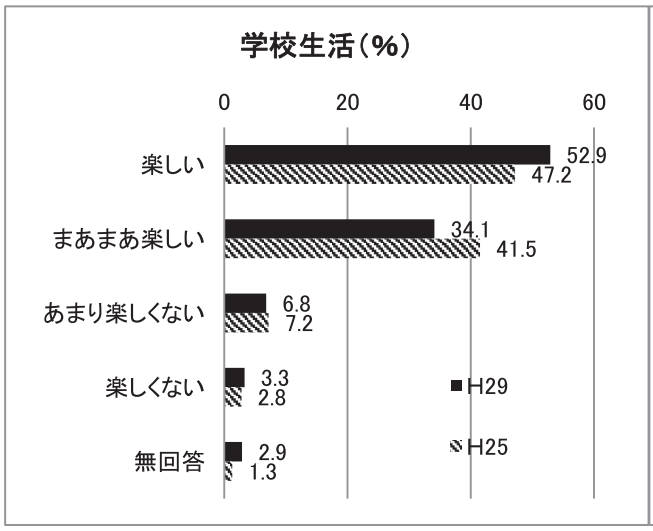
家の手伝いについては、平成 25 年と同様に「食事のあとかたづけ」が 51.7%と最も多く、「おふろあらい」が 45.6%、「そうじ」に代わって「せんたく」が 37.0%と続いています。

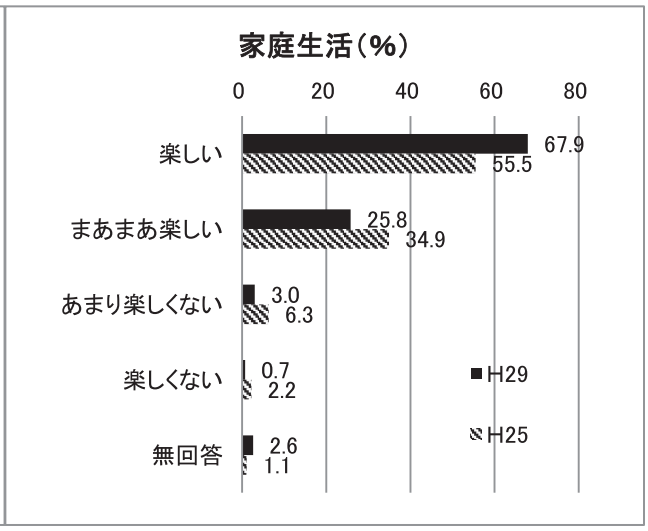
（単位：%）

区分	食事づくり	食事のあとかたづけ	そうじ	せんたく	買い物（おつかい）	おふろあらい	ゴミ出し	弟や妹の世話	ペットの世話花の水やり	その他
小6	34.2	51.4	37.0	34.2	17.2	51.4	37.4	19.5	30.2	7.4
中2	29.1	52.0	30.3	39.9	15.5	39.4	29.6	16.5	22.9	4.9
全体（H29）	**31.7**	**51.7**	**33.7**	**37.0**	**16.4**	**45.6**	**33.6**	**18.1**	**26.7**	**6.2**
全体（H25）	**32.1**	**56.0**	**40.2**	**34.2**	**20.9**	**47.6**	**32.7**	**20.0**	**29.3**	**6.2**

学校での生活については、「楽しい」、「まあまあ楽しい」と答えた人を合わせて、全体で 87.0%となっており、平成 25 年の 88.7%と比較して減少しています。

また、家庭での生活については、「楽しい」、「まあまあ楽しい」と答えた人を合わせて、全体で 93.7%となっており、こちらは平成 25 年の 90.4%と比較して、増加しています。



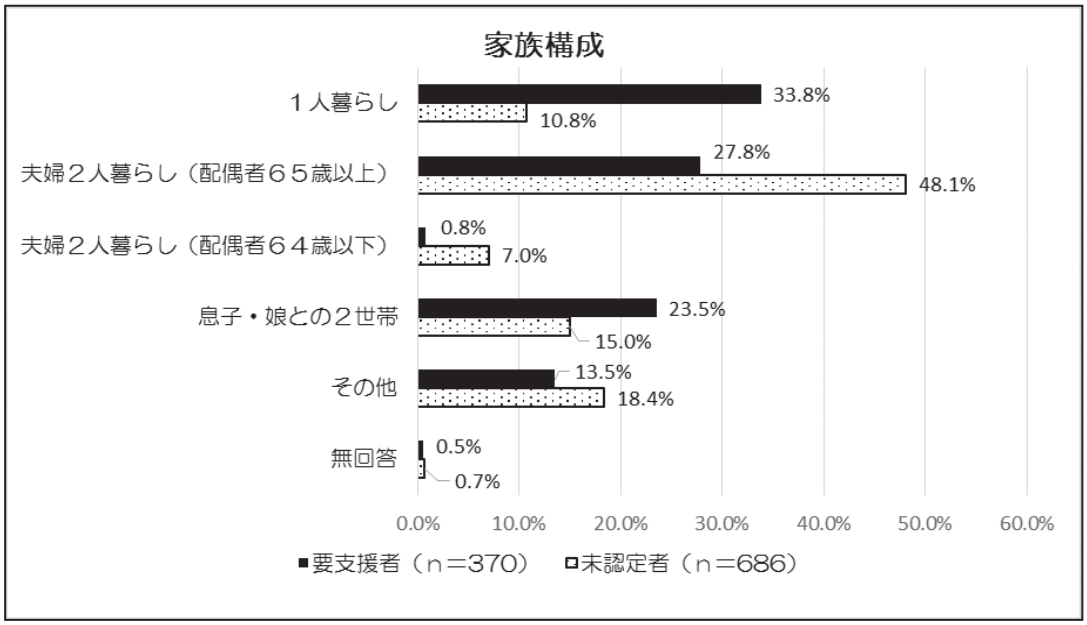


3-8.「いきいきくまとり高齢者計画 2018」より

「いきいきくまとり高齢者計画 2018」の中で、高齢者の現状を把握するために、65 歳以上で介護保険の認定を受けていない方（以下、「未認定者」）および介護保険の要支援認定を受けている方（以下、「要支援者」）を対象に実施したアンケート調査結果より一部を抜粋しました。

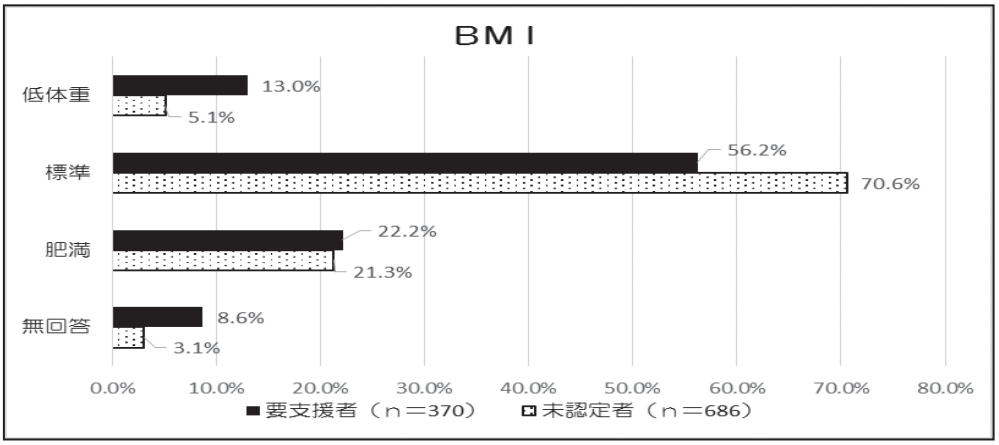
■家族構成について

家族構成については、要支援者では「１人暮らし」が 33.8%と最も多い結果となっていますが、未認定者では「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 48.1%と最も多い結果となっており、要支援者のひとり暮らし高齢者への支援策を充実させていく必要があります。



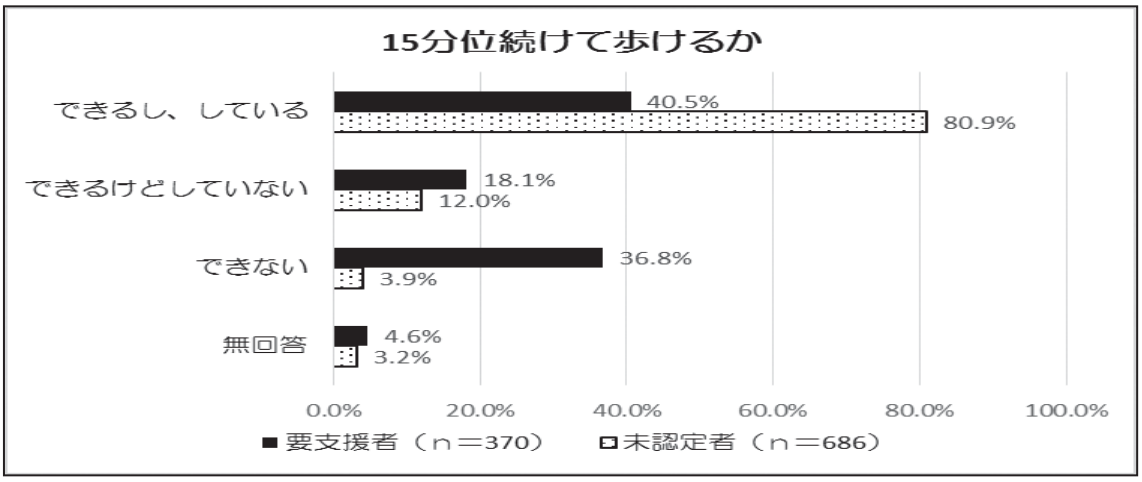
■ＢＭＩ（体重体格指数）

要支援者は未認定者に比べ、低体重の割合が２倍以上高くなっています。



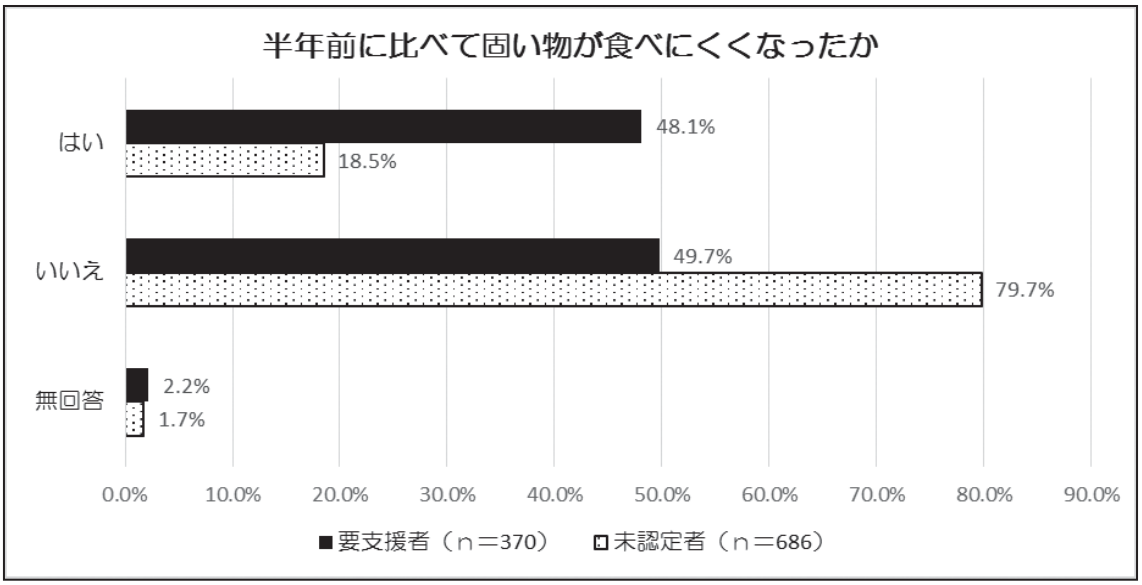
■15 分位続けて歩けるか

15 分位続けて歩けるかについては、未認定者は「できるし、している」が 80.9%と最も多くなっているのに対し、要支援者は「できるし、している」が 40.5%、「できない」が 36.8%となっており、要支援者の下肢筋力低下が認められる結果となっています。



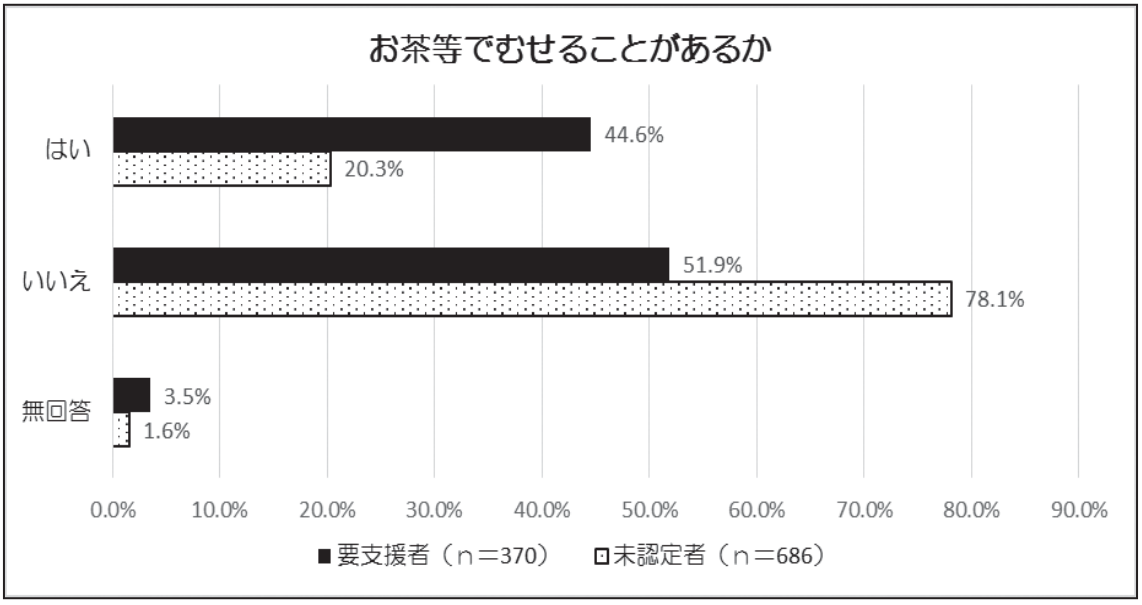
■半年前に比べて固い物が食べにくくなったか

半年前に比べて固い物が食べにくくなったかについて、要支援者はほぼ半数が「はい」と回答しており、バランスの良く食べるために必要な、咀嚼機能の低下が認められます。



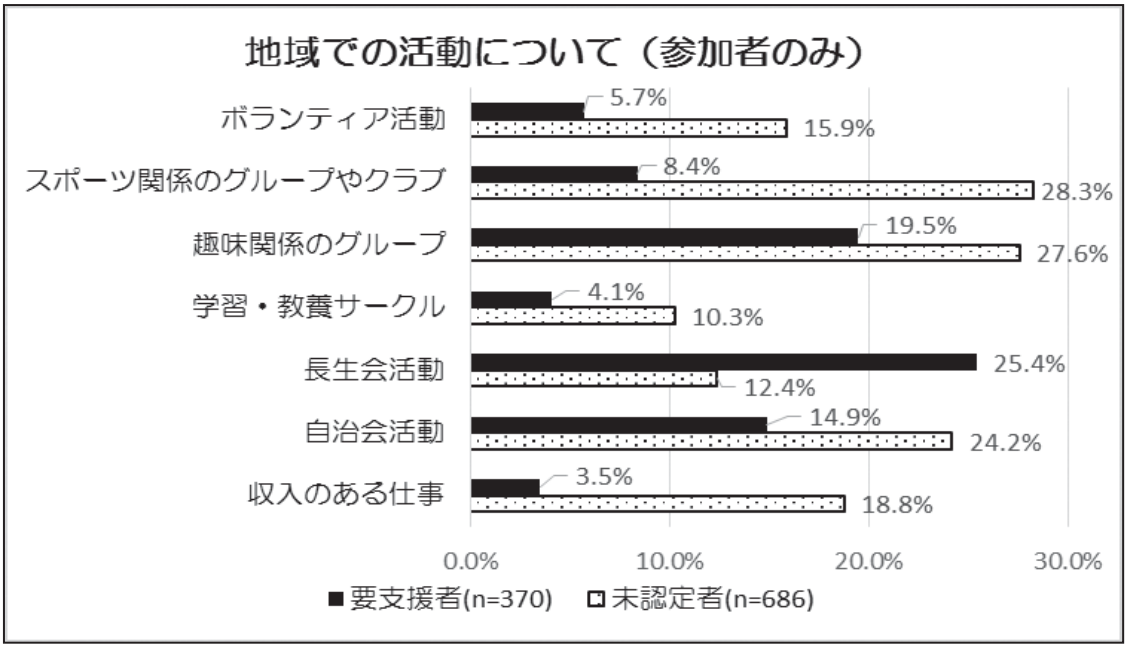
■お茶等でむせることがあるか

お茶等でむせることがあるかについては、要支援者の方が「はい」と回答する割合が高くなっており、要支援者で、窒息や誤嚥性肺炎にもつながる、飲み込みの機能低下が認められます。



■地域活動への参加について

地域活動への参加については、全般的に要支援者の方が「参加している」割合が低い傾向がみられます。閉じこもり予防は体力づくりや認知症予防にもつながると言われており、社会参加や人との交流の機会を高めていく必要があります。



3-9．アンケート結果から見た変化と特徴

※文中の目標値については、73 ページから 75 ページを参照。

項目	特徴
栄養・食生活	・朝食摂取率は、「ほとんど毎日食べる」割合はどの年代も目標値を下回り、特に 20 歳以上の欠食率が高い。 ・「欠食の理由」は、20 歳代では「食べる時間がない」、小６・中２、30 歳代から 60 歳代では「食欲がない」割合が１番高い。 ・朝食内容は、主食と牛乳・乳製品の摂取が多い傾向がどの年齢にもみられ、主食はごはんより、パンの方がどの年齢も多くなっていた。20 歳代で「菓子パン」の摂取が４割と増加した。 ・「1 日に食べる野菜の回数」は、「３回以上」の割合が全体で減少（特に 20 歳代）した。また 20 歳代では「１回」の割合が高い。 ・「熊取町の特産物を食べたことがある人」の割合は、全体で増加し、目標値を達成している。 ・共食の割合は、前回の調査に比べて、「朝食」は大きな変化はなかったが、「夕食」は小６・中２で減少している。 ・食育への関心は小６、中２で前回の調査に比べて増加したが、目標値は未達成である。20 歳以上の全体では食育への関心は減少したが、30 歳代では増加し、最も高かった。 ・食事作りを手伝っている子どもは小６、中２で前回の調査に比べて減少しており、目標値を下回っている。 ・災害時への備えをしている人の割合は増加している。 ・介護保険要支援者は、介護保険未認定者に比べ低体重の割合が２倍以上高い。
身体活動・運動	・１回 30 分以上の運動を「ほぼ毎日、週 3～4 日している」割合は概ね横ばいであるが、目標値を下回っている。 ・20 歳以上全体では「1 回 30 分以上の運動を週２日以上、１年以上行っている」割合が増加しており、60 歳以上は５割を超えている。年齢が上がるにつれ、運動習慣のある割合が高くなっている。 ・「運動をしない理由」では、20 歳代から 60 歳代では「時間がない」、70 歳以上では「体調が悪い」が１番多い。 ・介護保険要支援者は、15 分以上続けて歩けない割合が 36.8%と、介護保険未認定者の 3.9%に比べ高い。
たばこ	・小６、中２で喫煙への興味「ある」「少しある」の合計は、前回の調査に比べて減少しているが、目標値には達していない。 ・前回の調査に比べ「喫煙率」は低下しているが、女性全体と 20 歳代は増加しており、全年代で目標値に達していない。

項目	特徴
アルコール	・小６、中２で飲酒への興味「ある」「少しある」の合計は、前回の調査に比べて減少していたが、目標値に達していない。 ・「ほぼ毎日飲酒する」人の割合が、前回の調査と比べ全体で増加。 ・「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している（男性１日２合以上・女性１日１合以上）」「多量飲酒である（１日３合以上）」人の割合が、男女ともに増えており、国・府と比較しても高い。 ・妊娠期の飲酒は前回の調査と比べ減ったが、目標値に達していない。
休養・こころの健康	・起床時間は、１歳から小３のうち就園、就学児は午前８時までにほとんど起床している。小６、中２では９割以上の人が午前７時台までに起きている。 ・寝る時間は、１歳から小３の約７割が22時までに就寝している。小６では22時台、中２では23時台に寝る割合が最も高い。 ・前回の調査と比べ、小６、中２ともに睡眠で休養がとれている割合が減少している。 ・小６・中２では、学校生活・家庭生活ともに「楽しい」「まあまあ楽しい」を合わせて約９割となっており、前回と同程度である。 ・40歳以上では「睡眠による休養が十分にとれている」人の割合は前回と比べ横ばいであり、目標値を下回っている。 ・20歳以上全体では、ストレスを感じることが「よくある・ときどきある」割合は、特に40歳代で高い。また、「ストレスの原因」・「ストレスの解消方法」は前回の調査と比べ大きく変化がない。 ・20歳以上全体では、生きがいや充実感が「非常にある・ある」の人の割合は、前回と比べ横ばいであり、目標値を下回っている。
歯の健康	・歯磨きを１日に「3回以上」している割合は前回の調査と比べて減少傾向である。 ・「定期的に歯科健診を受けている人」は「歯間部清掃用具を使う人」の割合が全体で増加したが、目標値を下回っている。 ・「自分の歯が24本以上ある人」の割合が前回の調査と比べ増加しているが、目標値を下回っている。 ・介護保険要支援者は、「固いものが食べにくくなった」「お茶等でむせることがある」の割合が、介護保険未認定者に比べ２倍以上ある。

項目	特徴
健康チェック	・1 歳から小 3、小 6・中 2 で「とても健康である」「まあまあ健康である」割合が、前回の調査に比べて減少している。 ・20 歳以上の全体では、主観的健康感が「とても健康・まあまあ健康」割合が全体で増加し、目標値を達成している。 ・「1 年に 1 回健康診査を受けている」割合は 20 歳以上全体で 56.6%と増加している。 ・各がん検診では、40 歳代の受診率が低い。 ・健康診査を「受診しない理由」は、「時間がない」「めんどうだから」「費用がかかる」の順で高く、20 歳代では「費用がかかる」、30・40 歳代では「時間がない」、50・60 歳代では「めんどうだから」、70 歳以上では「通院している」が 1 番多い。
地域づくり	・近所づきあいの頻度が「ほとんどない」割合は、50 歳代が最も高い。また、近所づきあいの意向は、「積極的にした方が良い・した方が良い」割合が減少し、「ほどほどが良い」割合が一番高い。 ・地域のイベントなどへの参加は、「参加していない」割合が、一番高く、20 歳代では 60%と他の年代より高い。